

CA SYSVIEW® Performance Management

リリース ノート

リリース 13.9



このドキュメント（組み込みヘルプシステムおよび電子的に配布される資料を含む、以下「本ドキュメント」）は、お客様への情報提供のみを目的としたもので、日本CA株式会社（以下「CA」）により隨時、変更または撤回されることがあります。

CAの事前の書面による承諾を受ければ本ドキュメントの全部または一部を複写、譲渡、開示、変更、複本することはできません。本ドキュメントは、CAが知的財産権を有する機密情報です。ユーザは本ドキュメントを開示したり、

(i) 本ドキュメントが関係するCAソフトウェアの使用についてCAとユーザとの間で別途締結される契約または(ii) CAとユーザとの間で別途締結される機密保持契約により許可された目的以外に、本ドキュメントを使用することはできません。

上記にかかわらず、本ドキュメントで言及されているCAソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただしCAのすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本ドキュメントを印刷するまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、上記のライセンスが終了した場合には、お客様は本ドキュメントの全部または一部と、それらを複製したコピーのすべてを破棄したことを、CAに文書で証明する責任を負います。

準拠法により認められる限り、CAは本ドキュメントを現状有姿のまま提供し、商品性、特定の使用目的に対する適合性、他者の権利に対して侵害のないことについて、黙示の保証も含めいかなる保証もしません。また、本ドキュメントの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の喪失等、いかなる損害（直接損害か間接損害かを問いません）が発生しても、CAはお客様または第三者に対し責任を負いません。CAがかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本ドキュメントで参照されているすべてのソフトウェア製品の使用には、該当するライセンス契約が適用され、当該ライセンス契約はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本ドキュメントの制作者はCAです。

「制限された権利」のもとでの提供：アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212、52.227-14 及び 52.227-19(c)(1)及び(2)、ならびに DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Copyright © 2013 CA. All rights reserved. 本書に記載された全ての製品名、サービス名、商号およびロゴは各社のそれぞれの商標またはサービスマークです。

CA Technologies 製品リファレンス

このマニュアルが参照している CA Technologies の製品は以下のとおりです。

- CA Application Performance Management (CA APM)
- CA DATACOM®/DB (CA Datacom/DB)
- CA グラフィカル管理インターフェース (CA GMI)
- CA Chorus™ Software Manager (CA Chorus Software Manager)
- CA Chorus™
- CA OPS/MVS® Event Management and Automation (CA OPS/MVS)
- CA SYSVIEW® Performance Management (CA SYSVIEW)
- CA SYSVIEW® Performance Management Option for CICS (CA SYSVIEW Option for CICS)
- CA SYSVIEW® Performance Management CA Datacom® Option (CA SYSVIEW CA Datacom Option)
- CA SYSVIEW® Performance Management Option for IMS (CA SYSVIEW Option for IMS)
- CA SYSVIEW® Performance Management Option for TCP/IP (CA SYSVIEW Option for TCP/IP)
- CA SYSVIEW® Performance Management Option for WebSphere MQ (CA SYSVIEW Option for WebSphere MQ)

CA への連絡先

テクニカル サポートの詳細については、弊社テクニカル サポートの Web サイト (<http://www.ca.com/jp/support/>) をご覧ください。

目次

第 1 章: 新機能	7
DVD 配布	7
第 2 章: 既存機能の拡張	9
CA Chorus Software Manager	9
マニュアル	9
技術情報コンテンツの考え方	10
インストール ガイド	10
システム環境設定オプション	11
ライブラリ連結	13
例外アラート サマリ	15
ログストリーム使用状況	16
インストール拡張機能	17
ユーザ代替可能なモジュール	19
管理	21
追加されたパラメータ ライブラリメンバ	21
パラメータ ライブラリデータセットメンバ GROUPS	21
IDMS コンポーネント	22
サイトライブラリデータセット名	22
パラメータ ライブラリ メンバ OPTIONS	29
オプション	31
ベース製品の拡張機能	31
Option for CICS	98
CA DATACOM Option	120
DB2 オプション	121
Event Capture Option	122
Option for IMS	124
TCP/IP オプション	139
Option for WebSphere MQ	144
コンポーネント	150
オーディットイベントコンポーネント	151
CA グラフィカル管理インターフェース	153
CA Explore Report Writer	156
IDMS コンポーネント	157

セキュリティ	159
REXX 環境	164
ユーザ定義ディスプレイ	167
ユーザコマンド定義	168
ダッシュボード	170

第 1 章: 新機能

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[DVD 配布 \(P. 7\)](#)

DVD 配布

この製品は CA Technologies メインフレーム製品 DVD のディレクトリからインストールできます。

注: 詳細については、DVD に収録されている「インストールガイド」を参照してください。

第 2 章: 既存機能の拡張

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

- [CA Chorus Software Manager \(P. 9\)](#)
- [マニュアル \(P. 9\)](#)
- [システム環境設定オプション \(P. 11\)](#)
- [ライブラリ連結 \(P. 13\)](#)
- [例外アラートサマリ \(P. 15\)](#)
- [ログストリーム使用状況 \(P. 16\)](#)
- [インストール拡張機能 \(P. 17\)](#)
- [ユーザ代替可能なモジュール \(P. 19\)](#)
- [管理 \(P. 21\)](#)
- [オプション \(P. 31\)](#)
- [コンポーネント \(P. 150\)](#)

CA Chorus Software Manager

CA Mainframe Software Manager™ (CA MSM) は、CA Chorus™ Software Manager (CA Chorus Software Manager) に名前変更され、CA Chorus look-and-feel を採用します。

CA Chorus Software Manager リリース 5.1 では、ポリシーによってタスクの管理および編成を行うことができます。タスク出力のコピー、削除、移動を行うには、タスク管理ポリシーを使用します。タスクの経過期間およびそれらのタイプなどの条件に基づいてタスクを選択してください。タスク ポリシーは、Task Policy ウィザードを使用して作成します。

注: 詳細については、「*CA Chorus Software Manager User Guide*」を参照してください。

マニュアル

このセクションでは、マニュアルの更新について説明します。

技術情報コンテンツの考え方

このドキュメントセットは、以下の重要分野に焦点を当てています。

- キービジネスプロセスを完了する手順を詳述する、役割ベースのシナリオ。これらのシナリオは、従来のガイドに表示することができ、また単独のナレッジデータベース項目として<http://ca.com/jp/support>上にも表示することができます。.
- 製品のフルライフサイクル全体にわたるコンテンツ（技術情報からのコンテンツ、製品管理、サポート、販売、サービス、および教育を含む）へのアクセスを提供するエンドツーエンドビューエンドツーエンドモデルに基づくマニュアル選択メニューは、従来のガイドや製品に関連するさまざまな情報源へのリンクをユーザに提供します。
- 操作性およびアクセシビリティを促進する簡潔な製品コンテンツ。

インストールガイド

「インストールガイド」の構成が変更され、以下の製品のインストール方法が追加されました。

- CA Chorus Software Manager
- Pax-Enhanced Electronic Software Delivery (Pax ESD)
- DVD

システム環境設定オプション

システム環境設定オプション メンバは、CA SYSVIEW の初期化中に設定オプションを設定するために使用されます。システム環境設定オプション メンバは、システム **parmlib** データ セットの連結にあります。

例： **SYS1.PARMLIB**

サブシステム ID を、z/OS システムまたは LPAR 内の CA SYSVIEW の各インスタンスまたはインストールへ割り当てます。

4 文字の CA SYSVIEW サブシステム ID (SSID) を使用して、システム **parmlib** のシステム環境設定オプション メンバに名前を割り当てます。

Member name = GSVXssid

メンバ名の最初の 4 文字は、常に **GSVX** です。

以下に例を示します。

```
SYSVIEW subsystem ID = GSVX
Member name = GSVXGSVX
```

デフォルトの SYSVIEW サブシステム ID は **GSVX** です。

CA SYSVIEW の複数のインスタンスを単一の z/OS システムにインストールできます。CA SYSVIEW のこれらのインスタンスは、同じリリース レベルのものと、異なるリリース レベルのものがあります。

- 同じリリース レベルの複数のインスタンスは、SYSVIEW サブシステム ID または **System Configuration Options** メンバを共有できません。同じリリース レベルで実行される各 SYSVIEW へ一意のサブシステム ID を割り当てます。
- 別のリリース レベルの複数のインスタンスは、SYSVIEW サブシステム ID および **System Configuration Options** メンバを共有できます。

CA SYSVIEW の複数のインスタンスが同じサブシステム ID でインストールされる場合、それらのインスタンスにより、同じ **SYS1.PARMLIB** メンバ **GSVXssid** でそれらのシステム環境設定オプションが規定されます。

インスタンスごとに以下の構造でオプションを囲むことにより、リリース別にオプションを分離してください。

インスタンスに対して一意でないこれらのオプションは複数のインスタンスで共有でき、")IF" ステートメント内にある必要はありません。

例 1 :

```
)IF RELEASE=13.9
    option1
    option2
)ENDIF
```

```
)IF RELEASE=13.7
    option1
    option2
)ENDIF
```

```
)IF RELEASE=13.5
    option1
    option2
)ENDIF
```

```
)IF RELEASE=rr.m
    option1
    option2
)ENDIF
```

例 2

```
)IF RELEASE=13.9
    )INCLUDE mbr139
)ENDIF
```

```
)IF RELEASE=13.7
    )INCLUDE mbr137
)ENDIF
```

```
)IF RELEASE=13.5
    )INCLUDE mbr135
)ENDIF
```

CA SYSVIEW r13.5 より前のリリースでは、SYSVIEW GEN モジュールによってシステム環境設定オプションを指定していました。 GEN モジュールは、現在使用されなくなっています。

ライブラリ連結

CA SYSVIEW のインストールは、いくつかのタイプのライブラリまたは特定のタイプのデータが含まれるように設定されたデータ セットで構成されます。このライブラリは、ライブラリ タイプ (libtype) として参照されます。

ライブラリ タイプは、複数のデータ セットで構成されることがあります。これらのデータ セットは、指定されたライブラリ タイプに対して読み込み要求が作成される際に動的に連結します。

1 つのデータ セット タイプに対して 1 つのデータ セットのみを定義できます。したがって、最大の 3 つのデータ セットを連結できます。

定義されているデータ セットは、以下の順に連結されます。

```
libtype DD DISP=SHR,DSN=user.data.set
          DD DISP=SHR,DSN=site.data.set
          DD DISP=SHR,DSN=system.data.set
```

指定可能なデータ セット タイプは次のとおりです。

USER (オプション)

オプションのユーザ定義データ セットには、定義またはサイト定義またはシステム定義のオーバーライドが含まれます。

ユーザは、CA SYSVIEW プロファイル内のユーザデータ セット名の定義および保守を行います。

SITE (オプション)

オプションのサイト定義データ セットには、定義またはシステム定義のオーバーライドが含まれます。

サイトデータ セット名は、CA SYSVIEW のシステム環境設定オプションメンバ (GSVXSYSV) で定義されています。

システム環境設定オプションメンバは、z/OS システム parmlib データ セットの連結内にあることが必要です。

例： SYS1.PARMLIB

SYSTEM

必須のシステム定義データセットには、定義または設定オプションが含まれます。システムデータセットの集合には、製品インストールで提供された元のメンバが含まれます。システムデータセット名は、CA SYSVIEW システム環境設定オプションメンバ (GSVXSYSV) で定義されています。

システム環境設定オプションメンバは、z/OS システム parmlib データセットの連結内にあることが必要です。

例： SYS1.PARMLIB

詳細については、ヘルプ トピック 「Library concatenation - USER, SITE, and SYSTEM」 を参照してください。

例外アラート サマリ

CA SYSVIEW には 1000 種類を超える変数メトリックがあり、それらを使用してシステム リソースや以下のようなサブシステム コンポーネントのリソースをモニタすることができます。

- CICS
- IMS
- WebSphere MQ
- TCP/IP

一般的に、CA SYSVIEW は、数十万種類のリソースをモニタします。それらのリソースまたはメトリックごとに、例外アラートを作成できます。

リソースおよびメトリックのモニタリングの要約および編成を行うには、コマンド ALERTSUM を使用できます。

コマンドの例と表示

- アラート要約メニュー
- オーナ別のアラート サマリ
- オーナおよびリソース別のアラート サマリ
- オーナおよびインスタンス別のアラート サマリ
- オーナ、インスタンス、およびリソース別のアラート サマリ

モニタされた例外アラートは、いくつかの異なるレベルで要約できます。

Owner

オーナごとにサマリ データ行を 1 つ表示します。

オーナに複数の子インスタンスがある場合、アラート情報はオーナ サマリ データ行にロールアップされます。

有効なオーナ:

- システム
- MVS
- CICS
- IMS
- TCP/IP

■ WebSphere MQ

Owner/Resource

オーナごとにサマリデータ行を1つ表示します。

オーナに関連付けられているリソース サマリ グループごとにデータ行を1つ表示します。

オーナに複数の子インスタンスがある場合、アラート情報はオーナ サマリ データ行およびサマリ リソース データ行にロールアップされます。

Instance

オーナごとにサマリデータ行を1つ表示します。

オーナに関連付けられているリソース サマリ グループを要約するインスタンスごとにデータ行を1つ表示します。

Resource

オーナごとにサマリデータ行を1つ表示します。

関連するリソースデータ行を要約したインスタンスごとにデータ行を1つ表示します。

インスタンスに関連付けられたリソースごとにデータ行を表示します。

ログストリーム使用状況

CA SYSVIEW では、MVS ログストリームによるオンライン表示に関する履歴コレクションデータを維持しています。

ログストリームとの間での読み取りおよび書き込みに使用される CA SYSVIEW ログストリーム技術の拡張により、以下の利点が得られます。

- ログストリームとの間での読み取りおよび書き込みに使用される CPU 使用時間が短縮され、パフォーマンスが大幅に向上します。
- ログストリームから大量のレコードを読み取るための経過時間が短縮されます。

インストール拡張機能

インストールプロセスが機能強化されました。

テープインストール

物理テープまたはカートリッジを使用した CA SYSVIEW のインストールは、リリース 13.9 で廃止されました。

SYSVIEW LPA ライブラリ - CNM4BLPA

CA SYSVIEW のインストールには、PDS 形式の新しい *hlq.CNM4BLPA* ライブラリが含まれます。CNM4BLPA ライブラリに含まれるモジュールは、以下の方法のいずれかを使用して LPA にロードされる必要があります。

- 動的インストールユーティリティ GSVXINST
- SYS1.PARMLIB の IEALPAXx メンバに対してモジュールを恒久的に定義する

SYSVIEW ライブラリの連結

CA SYSVIEW のインストールは、いくつかのタイプのライブラリまたは特定のタイプのデータが含まれるように設定されたデータセットで構成されます。このライブラリは、ライブラリ タイプ (libtype) として参照されます。

ライブラリ タイプは、複数のデータセットで構成されることがあります。これらのデータセットは、指定されたライブラリ タイプに対して読み込み要求が作成される際に動的に連結します。

1 つのデータセット タイプに対して 1 つのデータセットのみを定義できます。したがって、最大の 3 つのデータセットを連結できます。定義されているデータセットは、以下の順に連結されます。

```
libtype DD DISP=SHR,DSN=user.data.set
          DD DISP=SHR,DSN=site.data.set
          DD DISP=SHR,DSN=system.data.set
```

SITE データセットおよび SYSTEM データセットの割り当ては、インストール中に行われます。

SYSTEM データセットには、現在のリリースのメンバが入力されています。

SITE データ セットは、割り当てのみを行われます。SITE データ セットにメンバはコピーされません。SITE データ セットは、顧客が作成するメンバに使用されることを目的としています。メンバには、定義またはシステム定義のオーバーライドが含まれます。将来的なリリースにマigratedする際に SITE データ セットを再利用します。

SAMPLIB データ セットには、USER データ セットおよび SITE データ セットを割り当てるためのサンプルジョブが含まれます。

- USER ライブラリ データ セットを作成するジョブ
SYSVIEW.DEV.BASE.SAMPLIB(USERLIBS)
- SITE ライブラリ データ セットを作成するジョブ
SYSVIEW.DEV.BASE.SAMPLIB(SITELIBS)

CA SYSVIEW のメンテナンス

CA SYSVIEW のインストールにより、以下のサンプル JCL メンバが SAMPJCL データ セットに生成されるようになりました。これにより、メンテナンスの適用が促進されます。

- NM41HOLD - FTP Download SMP/E ERROR HOLDDATA
- NM47RECH - SMP/E Receive HOLDDATA
- NM47RECP - SMP/E Receive SYSMODS
- NM48APYP - SMP/E Apply PTFS
- NM49ACCP - SMP/E Accept PTFS

使用可能な PTF は <http://ca.com/support> から ダウンロードできます。

ユーザ代替可能なモジュール

以下のモジュールは、ユーザによって代替可能です。

■ GSVBSSID - デフォルトの CA SYSVIEW サブシステム ID

CA SYSVIEW スターティッドジョブ、アドレス空間、ユーザセッションは、セッションが接続する SYSVIEW のインスタンスを決定する必要があります。通常、ユーザはシステム上で SYSVIEW のインスタンスを 1 つ実行します。GSVX のデフォルトのサブシステム ID は、その SYSVIEW インスタンスに割り当てられます。

以下の場合には、サブシステム ID を指定することにより、ジョブ、アドレス空間、またはユーザセッションを SYSVIEW の正しいインスタンス接続してください。

- システム上で CA SYSVIEW の複数インスタンスが実行されている場合
- SYSVIEW インスタンスに割り当てたサブシステムが GSVX 以外に設定されている場合

サブシステム ID は、さまざまな方法で指定できます。これらは、呼び出しのタイプ（ジョブ、アドレス空間、ユーザセッション）によって異なります。

GSVBSSID モジュールには、CA SYSVIEW のデフォルトの GSVX サブシステム ID が含まれます。CA SYSVIEW セッションを呼び出す際にサブシステム ID が指定されない場合、モジュール GSVBSSID のコンテンツが使用されます。

このモジュールは、以下の目的で便宜上提供されています。

- SYSVIEW の複数インスタンスを実行する
- デフォルトのサブシステム ID を GSVX 以外に変更する

■ GSVBUXLT - ユーザ変換テーブル

変換テーブルセットは、モジュール GSVBUXLT で定義されています。インストレージテーブルを表示するには、TRTABLES コマンドを使用してください。異なる特殊文字のセットが含まれる可能性のあるカスタムテーブルのアセンブルおよびリンクを行うには、USERMOD を使用してください。

注: INSTALL の実行に SAMPJCL データセットのメンバ USRM0002 を確認してください。

注: モジュール **GSVBUXT** は便宜上提供されているものであり、変更する場合には必要条件はありません。

CA SYSVIEW では、以下のユーザ変換テーブルが提供されています。

Standard

(デフォルト)標準変換テーブルセットを提供します。

Alternate

代替変換テーブルセットを提供します。

XStandard

拡張された標準テーブルセットを提供します。

XAlternate

拡張された代替テーブルセットを提供します。

USER1

ユーザ変換テーブルセット 1 を提供します。

USER2

ユーザ変換テーブルセット 2 を提供します。

変換テーブルセットを変更するには、**SET TRANSLATE <setname>** コマンドを使用します。それぞれの変換テーブルセットには以下のテーブルが含まれます。

AsciiToEbcdic

ASCII を EBCDIC に変換します。

EbcdicToAscii

EBCDIC を ASCII に変換します。

TestAscii

表示可能な ASCII 文字かどうかを調べます。

TestDisplay

表示可能な文字かどうかを調べます。

TestLower

小文字かどうかを調べます。

TestSpecial

特殊文字かどうかを調べます。

TestUpper

大文字かどうかを調べます。

XlateDisplay

表示可能な文字に変換します。

XlateLower

大文字を小文字に変換します。

XlateUpper

小文字を大文字に変換します。

管理

CA SYSVIEW 管理機能が拡張されました。

追加されたパラメータライブラリメンバ

パラメータライブラリが拡張され、以下の新規メンバの追加が行われました。

新規メンバ

システム設定オプション `parmlib` メンバ `GSVXSYSV` が追加されました。

```
SYSVIEW.DEV.BASE.PARMLIB(GSVXSYSV)  
system.parmlib(GSVXGSVX)
```

パラメータライブラリデータセットメンバ GROUPS

パラメータライブラリデータセットメンバ `GROUPS` が拡張され、新規論理グループタイプが追加されました。

IDMS

`IDMS` ジョブ名を指定します。

`Parmlib` メンバ：

```
system.parmlib(GSVXSYSV)
```

サンプル：

```
SYSVIEW.DEV.BASE.PARMLIB.SYSTEM(GSVXGSVX)
```

IDMS コンポーネント

IDMS コンポーネントが機能拡張され、IDMS 用にコンポーネント CA SYSVIEW をアクティブにするべきかどうかを指定できるようになりました。

有効な値 : Yes、No

デフォルト : No

サイトライブラリ データセット名

サイトライブラリ データセットは、対応するシステムデータセットの前に動的に連結されます。サイトデータセットは、システムデータセット内のメンバの代わりに使用するメンバを作成するために使用します。

Dsn-Site-CAPLIB

サイトの Event Capture ライブラリのデータセット名を指定します。Event Capture ライブラリのメンバは、Event Capture 発生時に処理される手順のリストを定義します。

- 有効な値 : 任意の有効なデータセット名。
- デフォルト値 : NONE
値 NONE は、サイトデータセット名が使用されないことを示します。
- 共有: このデータセットは CA SYSVIEW の複数のインスタンスおよびシステム間で共有できます。
- セキュリティ情報 : すべてのユーザにデータセットへの読み取りアクセス権限を付与することは可能ですが、必須ではありません。SYSVIEW ユーザインターフェース アドレス空間に割り当てられているユーザ ID には、データセットへのアクセス権限が必要です。
- 連結 :
 1. サイトデータセット (定義されている場合)
 2. システムデータセット

Dsn-Site-CLISTLIB

サイトのコマンド リスト ライブラリのデータ セット名を指定します。

- 有効な値：任意の有効なデータ セット名。
- デフォルト：**NONE**
値 **NONE** は、サイトデータ セット名が使用されないことを示します。
- 共有：このデータ セットは CA SYSVIEW の複数のインスタンスおよびシステム間で共有できます。
- セキュリティ情報：すべてのユーザがこのデータ セットの読み取りアクセス権限を有している必要があります。
- 連結：
 1. ユーザ データ セット（定義されている場合）
 2. サイト データ セット（定義されている場合）
 3. システム データ セット

Dsn-Site-HELPLIB

サイトのヘルプ ライブラリのデータ セット名を指定します。

- 有効な値：任意の有効なデータ セット名。
- デフォルト：**NONE**
値 **NONE** は、サイトデータ セット名が使用されないことを示します。
- 共有：このデータ セットは CA SYSVIEW の複数のインスタンスおよびシステム間で共有できます。
- セキュリティ情報：すべてのユーザがこのデータ セットの読み取りアクセス権限を有している必要があります。
- 連結：
 1. ユーザ データ セット（定義されている場合）
 2. サイト データ セット（定義されている場合）
 3. システム データ セット

Dsn-Site-MAPLIB

サイトのアセンブル済みマップライブラリのデータセット名を指定します。

- 有効な値：任意の有効なデータセット名。
- デフォルト：NONE
値NONEは、サイトデータセット名が使用されないことを示します。
- 共有：このデータセットはCA SYSVIEWの複数のインスタンスおよびシステム間で共有できます。
- セキュリティ情報：すべてのユーザがこのデータセットの読み取りアクセス権限を有している必要があります。
- 連結：
 1. ユーザデータセット（定義されている場合）
 2. サイトデータセット（定義されている場合）
 3. システムデータセット

Dsn-Site-MIBLIB

サイトのMIBライブラリのデータセット名を指定します。

- 有効な値：任意の有効なデータセット名。
- デフォルト：NONE
値NONEは、サイトデータセット名が使用されないことを示します。
- 共有：このデータセットはCA SYSVIEWの複数のインスタンスおよびシステム間で共有できます。
- セキュリティ情報：すべてのユーザがこのデータセットの読み取りアクセス権限を有している必要があります。
- 連結：
 1. ユーザデータセット（定義されている場合）
 2. サイトデータセット（定義されている場合）
 3. システムデータセット

Dsn-Site-PANELLIB

サイトのパネルライブラリのデータセット名を指定します。

- 有効な値：任意の有効なデータセット名。
- デフォルト：**NONE**
値 **NONE** は、サイトデータセット名が使用されないことを示します。
- 共有：このデータセットは CA SYSVIEW の複数のインスタンスおよびシステム間で共有できます。
- セキュリティ情報：すべてのユーザがこのデータセットの読み取りアクセス権限を有している必要があります。
- 連結：
 1. ユーザデータセット（定義されている場合）
 2. サイトデータセット（定義されている場合）
 3. システムデータセット

Dsn-Site-PARMLIB

サイトのパラメータライブラリのデータセット名を指定します。

- 有効な値：任意の有効なデータセット名。
- デフォルト：**NONE**
値 **NONE** は、サイトデータセット名が使用されないことを示します。
- 共有：このデータセットは CA SYSVIEW の複数のインスタンスおよびシステム間で共有できます。
- セキュリティ情報：すべてのユーザがこのデータセットの読み取りアクセス権限を有している必要があります。
- 連結：
 1. ユーザデータセット（定義されている場合）
 2. サイトデータセット（定義されている場合）
 3. システムデータセット

Dsn-Site-PLOTLIB

サイトのプロットライブラリのデータセット名を指定します。

- 有効な値：任意の有効なデータセット名。
- デフォルト：**NONE**
値 **NONE** は、サイトデータセット名が使用されないことを示します。
- 共有：このデータセットは CA SYSVIEW の複数のインスタンスおよびシステム間で共有できます。
- セキュリティ情報：すべてのユーザがこのデータセットの読み取りアクセス権限を有している必要があります。
- 連結：
 1. ユーザデータセット（定義されている場合）
 2. サイトデータセット（定義されている場合）
 3. システムデータセット

Dsn-Site-REXXLIB

サイトの REXX EXEC ライブラリのデータセット名を指定します。CA SYSVIEW は、このデータセットに含まれているテキストおよびコンパイル済み REXX EXEC を使用します。TSO/ISPF インターフェースにログオンすると、動的にこのライブラリが SYSEXEC DD に連結されます。

ライブラリは RECFM=F データセットとしてインストールされます。 SYSEXEC DD に対して RECFM=V データセットを使用するには、SYSVIEW REXX ライブラリをコピーして RECFM=V データセットに変換する必要があります。

注: コンパイル済みの REXX EXEC を RECFM=F データセットから RECFM=V データセットに単純にコピーすることはできません。 これらは、コピーした後に変換する必要があります。

CA SYSVIEW によって提供される 2 つの REXX ユーティリティ EXEC を使用して、SYSVIEW REXX exec のコピーおよび変換を行います。

GSVUCFV1

ISPF ライブラリ管理サービスを使用して、1 つ以上の REXX EXEC を RECFM=F データセットから RECFM=V データセットにコピーします。 この EXEC は、後述の GSVUCFV2 EXEC を呼び出して、コピーされたコンパイル済み REXX EXEC を変換することもできます。

GSVUCFV2

ISPF ライブラリ管理サービスを使用して、単一のコンパイル済み REXX EXEC を RECFM=F データセットから RECFM=V データセットに変換します。

CA SYSVIEW によって SAMPLIB データセット内に提供される以下のジョブを使用して、REXX EXEC のコピーおよび変換を行います。

REXXFTOV

この SAMPLIB JCL メンバは、以下のタスクを実行します。

1. GSVUCFV1 REXX EXEC を呼び出します。

この EXEC により、すべての REXX EXEC が RECFM=F データセットから RECFM=V データセットにコピーされます。

2. GSVUCFV2 EXEC 実行を呼び出すことによりコピーされたコンパイル済み REXX EXEC を変換します。

注: Dsn-Site-REXXLIB オプションが、変換済みの RECFM=V データセットのデータセットを指定していることを確認してください。

- 有効な値：任意の有効なデータセット名。

- デフォルト : **NONE**
値 **NONE** は、サイトデータセット名が使用されないことを示します。
- 共有: このデータセットは **CA SYSVIEW** の複数のインスタンスおよびシステム間で共有できます。
- セキュリティ情報: すべてのユーザがこのデータセットの読み取りアクセス権限を有している必要があります。
- 連結:
 1. ユーザデータセット (定義されている場合)
 2. サイトデータセット (定義されている場合)
 3. システムデータセット

Dsn-Site-TEMPLATE

サイトのテンプレートライブラリのデータセット名を指定します。

- 有効な値: 任意の有効なデータセット名。
- デフォルト: **NONE**
値 **NONE** は、サイトデータセット名が使用されないことを示します。
- 共有: このデータセットは **CA SYSVIEW** の複数のインスタンスおよびシステム間で共有できます。
- セキュリティ情報: すべてのユーザがこのデータセットの読み取りアクセス権限を有している必要があります。
- 連結:
 1. ユーザデータセット (定義されている場合)
 2. サイトデータセット (定義されている場合)
 3. システムデータセット

パラメータライブラリメンバ OPTIONS

パラメータライブラリデータセットメンバ **OPTIONS** の機能が拡張されました。

新規キーワード

- **CaptureShutDownWaitIntvl** - セッションタスクがシャットダウンするようにポストされた後、**CAPTURE** セッションコントローラが **CAPTURE** インターフェースセッションの終了を待機する時間枠（秒数）。アクティブセッションが指定時間内に終了しない場合、コントローラが強制的にセッションを終了します。

秒数を 1 ~ 600 の範囲で指定します。

デフォルト: 10

- **CicsShutDownWaitIntvl** - セッションタスクがシャットダウンするようにポストされた後、**CICS** セッションコントローラがアクティブな **CICS** インターフェースセッションの終了を待機する時間枠（秒数）。アクティブセッションが指定時間内に終了しない場合、コントローラが強制的にセッションを終了します。

秒数を 1 ~ 600 の範囲で指定します。

デフォルト: 10

- **FreeStorageAbendIfFailure** - **STORAGE RELEASE** または **FREEMAIN** が失敗した場合に **CA SYSVIEW** が異常終了するかどうかを制御します。

有効な値は以下の通りです。

- Yes

STORAGE OBTAIN または **FREEMAIN** リクエストが失敗した場合、異常終了が発生します。

- No

STORAGE OBTAIN または **FREEMAIN** リクエストが失敗しても、異常終了は発生しません。ストレージ解放失敗のメッセージがログに記録されます。

デフォルト: Yes

- **FreeStorageCheckTcbAddress** - **STORAGE RELEASE** または **FREEMAIN** リクエストに関して **CA SYSVIEW** が一致する **TCB** アドレスを確認するかどうかを制御します。

有効な値は以下の通りです。

- Yes

ストレージの割り当て時に保存された **TCB** アドレスと照合して、**STORAGE RELEASE** または **FREEMAIN** リクエストの呼び出し元の **TCB** アドレスが確認されます。 **TCB** アドレスが同じでない場合、呼び出し元は異常終了します。

- No

TCB アドレスは確認されません。

デフォルト : Yes

- **UserSessionStorageLimit** - ユーザ セッションストレージの制限。

この値は以下のように動作します。

- メガバイト数を **2 ~ 2047** の範囲で規定します。
- コマンドを実行するインターフェース アプリケーションのみに適用されます。
- EPVT ストレージ (16 MB 超および 2 GB 未満のストレージ) のみに適用されます。

この制限に達すると、コマンドの環境レベルを作成する試行が拒否されます。

値:

- 最小 : 2 MB
- 最大 : 2047 MB

デフォルト : 64

- **UseSysCloneInConsoleName** - 特定の **SYSVIEW** サービスが使用する拡張コンソール名で **SYSCLONE** 値を使用します。

有効な値は YES または NO です。

値が NO の場合、拡張コンソール名は以下の形式になります。

GSVX`nnnn`

`nnnn`

0000 ~ 9999 の数値。

値が YES の場合、拡張コンソール名は以下の形式になります。

GSxx`nnnn`

`xx`

SYSCLONE 値。 値が 1 バイトの場合は 0 で埋めます。

nnnn

0000 ~ 9999 の数値。

IEASYS*nn* parmlib メンバで指定した PLEXCFG= の値が MONOPLEX の場合は YES を指定する必要があります。YES を指定する場合、GRS リング内のすべてのシステムで SYSCLONE の値が一意であることが必要です。SYSCLONE の値が一意である限り、他のすべての PLEXCFG= 値に YES を指定可能です。

- **VtamShutDownWaitIntvl** - セッションタスクがシャットダウンするようポストされた後、VTAM セッションコントローラがアクティブな VTAM インターフェース セッションの終了を待機する時間枠(秒数)。アクティブ セッションが指定時間内に終了しない場合、コントローラが強制的にセッションを終了します。

秒数を 1 ~ 600 の範囲で指定します。

デフォルト: 10

オプション

CA SYSVIEW オプションの拡張機能について、このセクションで説明します。

ベース製品の拡張機能

CA SYSVIEW のベース製品が拡張されました。

ベース製品に追加されたコマンド

以下のコマンドがベース製品に追加されました。

CAMASM

CAMASTER アドレス空間管理情報を表示します。

CAMASTER

CAMASTER サービスを設定するために使用します。

CAMPSC

CAMASTER に管理された PC サービスを表示します。

CAPLIB

サイト CAPLIB ライブラリを表示します。

CAVARS

CAMASTER が管理する CA 変数サービスを使用して定義される変数を表示します。

HELPLIB

個人、サイト、およびシステムの HELPLIB ライブラリを表示します。

LISTMDIR

ライブラリのグループを処理し、複数のディレクトリのリストを表示します。

PANELLIB

個人、サイト、およびシステムの PANELLIB ライブラリを表示します。

REXXLIB

サイトおよびシステムの REXXLIB ライブラリを表示します。

TEMPLATE

TEMPLATE ライブラリを表示します。

拡張されたコマンド

既存のコマンドに、以下の拡張が行われました。

ASADMIN

アドレス空間管理

構文：

ASADMIN <options>

新規データフィールド：

- RRL - リカバリおよび再試行レベル。

CLISTLIB

CLIST ライブラリの一覧を表示します。

ライブラリ連結データセットは以下のものを追加しました(定義されている場合)。

- ユーザ
- サイト
- システム

CMDACT

コマンドアクティビティサマリ

新規データフィールド：

- IDMS - 発行されるコンポーネント IDMS コマンドの数。

GROUPS

論理グループの定義。

新規論理グループタイプ：

- IDMS - このタイプには IDMS ジョブ名が含まれます。

コマンドが拡張され、ライブラリ連結をサポートするようになりました。

変更された サブコマンド構文パラメータ：

データセットの特定のメンバへのエクスポート定義。

構文：

```
EXPORT member  
       dsname(member)
```

パラメータおよび説明

- *member* - 保存されるメンバの名前。
- *dsname* - 指定されたメンバが保存されるデータセット名。
データセット名は、完全修飾データセット名として指定するか、以下の特別なキーワードのいずれかを使用して指定できます。

キーワードおよび説明

- USER - ライブラリタイプ PARMLIB 用のユーザプロファイルで定義したオプションのデータセット名を使用します。

例： USER(*member*)

- SITE - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるオプションのサイト PARMLIB 日付セットを使用します。

例： SITE(*member*)

- SYSTEM - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるシステム PARMLIB データセットを使用します。

例： SYSTEM(*member*)

- SITESYSTEM|* - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるオプションのサイト PARMLIB データセットを使用します。サイトデータセットが定義されていない場合は、システム PARMLIB データセット名を使用します。

例

```
SITESYSTEM(member)  
          *(member)
```

LENGTHS

フィールド長データを表示します。

構文：

LENGTHS *fieldname* <rows> <opts>

新しい「rows」パラメータが追加され、データ行のサブセットが処理できるようになりました。

新規構文パラメータ：

- rows - 処理に含められる行。このパラメータは以下のように入力します。

startrow-endrow

startrow/numrows

アスタリスク (*) で現在の行番号を指定できます。

*

*/numrows

*+numrows/numrows

startrow、endrow、および numrows には 1 ~ 999999999 の数値の使用します。

rows パラメータを省略すると、すべての行が処理に含まれます。

LIBS

製品ライブラリに関する情報を表示します。

ライブラリ連結データセットは以下のものを追加しました(定義されている場合)。

- ユーザ
- サイト
- システム

新規サブコマンド:

- **OPTIONS** - 任意の数の値を任意の順番で指定できます。 **OPTIONS** サブコマンドを実行すると、すべてのオプションの現在の設定が常に表示されます。

以下に、有効な **OPTIONS <opts>** パラメータ値の一覧と説明を示します。

- **UNSupported**、**NOUNSupported** - サポートされていないデータセットの表示を制御します。
- **USer**、**NOUSer** - **USER** データセットの表示を制御します。
- **SLte**、**NOSlte** - **SITE** データセットの表示を制御します。
- **SYstem**、**NOSYstem** - **SYSTEM** データセットの表示を制御します。

新規データフィールド:

- **Alias** - 定義されたデータセット名がエイリアスである場合。 このフィールドには、定義されているエイリアス名が表示され、**[DatasetName]** フィールドに実名が表示されます。
- **CACHE** - **[Dataset-Name]** フィールドのディレクトリがキャッシュされている場合、このフィールドに「**CACHE**」と表示されます。
- **DispCmd** - **Select** 行がその行に入力される場合に使用される表示コマンド。

新規行コマンド:

- **CACHE** - ディレクトリがキャッシュデータセットに再ロードされます。

LIBVIEW

ライブラリ ビューアにライブラリ メンバーのコンテンツを表示します。

コマンドが拡張され、ライブラリ 連結をサポートするようになります。

構文:

```
LIBVIEW type      member
          dsname(member)
```

パラメータおよび説明

- **member** - 保存されるメンバの名前。
- **dsname** - そのメンバが含まれるライブラリのデータ セット名。
データ セット名は、完全修飾データ セット名として指定するか、以下の特別なキーワードのいずれかを使用して指定できます。

キーワードおよび説明

- **USER** - ライブラリ タイプ PARMLIB 用のユーザ プロファイルで定義したオプションのデータ セット名を使用します。
例 : **USER(member)**
- **SITE** - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるオプションのサイト PARMLIB 日付セットを使用します。
例 : **SITE(member)**
- **SYSTEM** - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるシステム PARMLIB データ セットを使用します。
例 : **SYSTEM(member)**
- **SITESYSTEM|*** - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるオプションのサイト PARMLIB データ セットを使用します。サイト データ セットが定義されていない場合は、システム PARMLIB データ セット名を使用します。

例

```
SITESYSTEM(member)
      *(member)
```

新規サブコマンド

- **USERDIR** - 指定したライブラリ タイプのキャッシュ済みディレクトリ リストを再ロードします。

構文 :

USERDIR タイプ

type - ライブラリ タイプを指定します。

新規情報セクションフィールド

- Caplib、Clistlib、Helplib、Maplib、Miblib、Panellib、Parmlib、Plotlib、およびTemplate

見出しの下の最初の行は、そのライブラリ タイプに対してキャッシュがアクティブかどうかを示します。

設定可能な値 :

- No - メンバをキャッシュしません。
- Yes - メンバをキャッシュします。

見出しの下の 2 番目の行は、ユーザ定義のデータセットおよびディレクトリリストのキャッシュの状態を示します。

設定可能な値 :

- NOUSER - ユーザデータセットは定義されていません。
- USER - ユーザデータセットがユーザプロファイルに定義されています。
- USERDIR - ユーザデータセットがユーザプロファイルに定義されており、そのデータセットのディレクトリリストが現在キャッシュされています。

新規データフィールド:

- Cache - メンバがライブラリ キャッシュから取得されたかどうかを示します。

MAPLIB

マップライブラリのコンテンツを表示します。

ライブラリ連結データセットは以下のものを追加しました(定義されている場合)。

- ユーザ
- サイト
- システム

MIBLIB

MIB ライブラリのコンテンツを表示します。

ライブラリ連結データセットは以下のものを追加しました(定義されている場合)。

- ユーザ
- サイト
- システム

PARMLIB

パラメータ ライブラリのコンテンツを表示します。

ライブラリ連結データセットは以下のものを追加しました(定義されている場合)。

- ユーザ
- サイト
- システム

PLOTLIB

PLOTLIB ライブラリのコンテンツを表示します。

ライブラリ連結データセットは以下のものを追加しました(定義されている場合)。

- ユーザ
- サイト
- システム

PLOTLIST

プロット選択リストを表示します。

コマンドが拡張され、ライブラリ連結をサポートするようになりました。

構文:

```
PLOTLIST    member
            dsname(member)
```

変更された構文パラメータ

- **dsname** - そのメンバが含まれるライブラリのデータセット名。
データセット名は、完全修飾データセット名として指定するか、以下の特別なキーワードのいずれかを使用して指定できます。

キーワードおよび説明

- **USER** - ライブラリタイプ PARMLIB 用のユーザプロファイルで定義したオプションのデータセット名を使用します。
例: **USER(member)**
- **SITE** - システム設定オプション parmlib メンバ **GSVXSYSV** で定義されるオプションのサイト PARMLIB 日付セットを使用します。
例: **SITE(member)**
- **SYSTEM** - システム設定オプション parmlib メンバ **GSVXSYSV** で定義されるシステム PARMLIB データセットを使用します。
例: **SYSTEM(member)**
- **SITESYSTEM|*** - システム設定オプション parmlib メンバ **GSVXSYSV** で定義されるオプションのサイト PARMLIB データセットを使用します。サイトデータセットが定義されていない場合は、システム PARMLIB データセット名を使用します。

例

```
SITESYSTEM(member)
      *(member)
```

QLIST

クイックリストコマンド

コマンドが拡張され、ライブラリ連結をサポートするようになりました。

構文：

```
QLIST      <name|ALL|ANY|ORIGIN|OTHER>
           <REBUILD>
           <OPTIONS <opts>>
           <BROWSE <User|SItelSYstem>>
           <EDIT <User|SItelSYstem>>
           <VIEW <User|SItelSYstem>>
```

変更された構文パラメータ：

- BROWSE <optkwrd>
- EDIT <optkwrd>
- VIEW <optkwrd>

QLIST USER、SITE、または SYSTEM PARMLIB メンバに対してこれらの ISPF コマンドを呼び出すには、以下のように操作します。

- QLIST コマンドを入力し、BROWSE、EDIT、または VIEW をパラメータとして指定します。
- 以下の <optkwrd> オプションパラメータのいずれかを指定します。

キーワードパラメータ(オプション)

- User - QLIST USER PARMLIB メンバのリクエスト。
- SItel - QLIST SITE PARMLIB メンバのリクエスト。
- SYstem - QLIST SYSTEM PARMLIB メンバのリクエスト。
- なし - USER PARMLIB データセットが定義されている場合の QLIST USER PARMLIB メンバのリクエスト。

QLIST は、USER PARMLIB データセットが定義されない場合、SITE PARMLIB メンバを使用します。QLIST は、SITE PARMLIB データセットが定義されない場合、SYSTEM PARMLIB データセットを使用します。

これらのコマンドは、BROWSE、EDIT、または VIEW サブコマンドを QLIST 表示から入力するのと同じです。

他の <optkwd> 値を指定すると、ISPF BROWSE、EDIT、または VIEW サービスが呼び出され、<optkwd> 値が ISPF サービスにパラメータとして渡されます。

新規サブコマンド:

- OPTIONS - 以下に、有効な OPTIONS <opts> パラメータ値の一覧と説明を示します。任意の数の値を任意の順番で指定できます。
OPTIONS サブコマンドを実行すると、すべてのオプションの現在の設定が常に表示されます。
- User、NOUser - USER PARMLIB データ セットから QLIST メンバを読み取るかどうかを制御します。デフォルトでは、USER に設定されています。このオプションを変更した後、QLIST データを再構築してください。再構築するには、QLIST 表示内から QLIST REBUILD コマンドまたは REBUILD サブコマンドを発行します。
- SItel、NOSite - SITE PARMLIB データ セットから QLIST メンバを読み取るかどうかを制御します。デフォルトでは、SITE に設定されています。このオプションを変更した後、QLIST データを再構築してください。再構築するには、QLIST 表示内から QLIST REBUILD コマンドまたは REBUILD サブコマンドを発行します。
- SYstem、NOSYstem - SYSTEM PARMLIB データ セットから QLIST メンバを読み取るかどうかを制御します。デフォルトでは、SYSTEM に設定されています。このオプションを変更した後、QLIST データを再構築してください。再構築するには、QLIST 表示内から QLIST REBUILD コマンドまたは REBUILD サブコマンドを発行します。

ROWDISP

行表示

ROWDISP コマンドは、入力フィールドの上書き機能、および更新されたデータフィールドを元のコマンドに戻して処理する機能をサポートするようになりました。

情報セクションのレイアウト

- 旧情報セクションのレイアウト :

```
Command <cmd>      <title>
Options <options>
```

- 新規情報セクションのレイアウト :

```
Options <options>
Command <cmd> Title <title>
Screen <scrn> Format <fmtn> RowCur <currow> RowTot <totrow>
```

新規情報セクションのフィールド:

- Options - 現在の有効なオプションのリスト。これらのオプションは、元の初期デフォルトまたは OPTIONS サブコマンドでオーバーライドされたデフォルトでもかまいません。
- Command - 元のコマンド名。
- Title - 元の画面タイトル。
- Screen - 元の画面名。画面名が定義されていない場合、このフィールドにはコマンド名が表示されます。
- Format - 元の形式名。
- RowCur - ROWDISP コマンドが表示している現在の行番号。
- RowTot - 元のコマンドによって表示された行の総数。

新規サブコマンド:

- OPTIONS - 以下に、有効な OPTIONS <opts> パラメータ値の一覧と説明を示します。任意の数の値を任意の順番で指定できます。OPTIONS サブコマンドを実行すると、すべてのオプションの現在の設定が常に表示されます。
 - <NO>INFO - コマンドの起源情報行の表示を制御します。
 - <NO>HEX - 16 進変換行の表示を制御します。
 - <NO>INPUT - 変更された入力フィールドのサポートを制御します。

- <NO>EXTENDED - 拡張フォーマットデータフィールドの表示を制御します。
- CANCEL - ROWDISP 表示を終了し、前のコマンドに戻ります。ROWDISP 画面で変更した入力フィールドは元のコマンドに伝達されません。
CANCEL サブコマンドの入力は、RETURN コマンドを入力したことと同じです。また、以下の場合に他のプライマリ表示コマンドを入力したことと同じです。
 - INPUT オプションが有効でない場合。
 - ROWDISP 表示で入力フィールドが変更されなかった場合。
- REFRESH - 表示データをリフレッシュします。REFRESH は、すべてのアクティブな SELECT コマンドまたは SORT コマンドに対する ROWDISP 表示をリフレッシュしますが、データ行の実際のコンテンツはリフレッシュしません。そのリフレッシュが必要な場合には、元のコマンドに戻り、そのデータをリフレッシュしてから、再度 ROWDISP コマンドを入力する必要があります。

新規データフィールド:

- T - 行データタイプのインジケータ。
- M - 変更された入力フィールドのインジケータ。
- FldType - フィールドタイプ。
- Input - 入力フィールドタイプ。
- Status - このフィールドが条件ステータスフィールドである場合は STATUS。
- Graph - このフィールドが棒グラフフィールドである場合は GRAPH。
- XSystem - このフィールドが XSystem データフィールドである場合は XSYSTEM。
- Repeat - このフィールドが繰り返されたフィールドである場合は REPEAT。
- Scroll - このフィールドが最初の水平スクロールフィールドである場合は SCROLL。
- VLFType - 可変長フィールドタイプ。
- LGType - 論理グループタイプ。
- DisL - 起源コマンド画面上の表示されたフィールドの長さ。

- OutL - 起源コマンドの出力 (データ) レコードフィールドの長さ。
- InpL - 起源コマンドの入力レコードフィールドの長さ。

新規行コマンド:

- Restore - 変更された入力フィールドを、ROWDISP コマンドが最初に呼び出された時点で存在していた元のコンテンツに戻します。

RESTORE は、以下の場合には無視されます。

- 行に入力フィールドがない場合。
- 入力データが変更されなかった場合。

SCHEDEULE

イベントをスケジュールします。

コマンドが拡張され、ライブラリ連結をサポートするようになりました。

変更された サブコマンド構文パラメータ:

データ セットの特定のメンバへのエクスポート定義。

構文 :

```
EXPORT member  
       dsname(member)
```

パラメータおよび説明

- *member* - 保存されるメンバの名前。
- *dsname* - 指定されたメンバが保存されるデータ セット名。
データ セット名は、完全修飾データ セット名として指定するか、以下の特別なキーワードのいずれかを使用して指定できます。

キーワードおよび説明

- **USER** - ライブラリタイプ PARMLIB 用のユーザプロファイルで定義したオプションのデータ セット名を使用します。
例 : **USER(*member*)**
- **SITE** - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるオプションのサイト PARMLIB 日付セットを使用します。
例 : **SITE(*member*)**
- **SYSTEM** - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるシステム PARMLIB データ セットを使用します。
例 : **SYSTEM(*member*)**
- **SITESYSTEM|*** - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるオプションのサイト PARMLIB データ セットを使用します。サイトデータ セットが定義されていない場合は、システム PARMLIB データ セット名を使用します。

例

```
SITESYSTEM(member)  
          *(member)
```

SELECT

フィールドの選択条件を設定します。

構文：

```
SELECT field oper value <conn <field oper value...>>
```

新規構文オペレータ パラメータ

- **CW** - 単語が含まれます。 単語とは、最初と最後が非英数字の文字列です。
- **NW** - 単語は含まれません。 単語とは、最初と最後が非英数字の文字列です。

SELECT コマンドは、* (アスタリスク) のフィールド名をサポートします。*を指定すると、前回のフィールド名 (フィールド名に「*」が使用されなかったもの) が使用されます。「*」が指定されていないフィールド名パラメータはすべて、次回のフィールド名が「*」の場合に使用するために保存されています。保存されたフィールド名は、それぞれの新しいSELECT コマンドと以下のSELECT オプションによってクリアされます。

SELECT RESET

```
SELECT ALL|CLEAR|omitted
```

SELECT MODIFY

前回のフィールド名が保存されるのは以下の場合は。

- 現在のSELECT コマンドが AND または OR コネクタで終っており、この保留状態のSELECT に続く次のSELECT で参照可能な場合。
- 現在のSELECT がアクティブになり、AND または OR コネクタで始まる後続のSELECT がすでにアクティブなSELECT を変更する際に現在のSELECT を参照可能な場合。

例：

```
SELECT jobname eq aaaa or * eq bbbb or * eq ccccc
SELECT jobname eq aaaa or
          (SELECT is pending)
SELECT * eq bbbb or
          (SELECT is pending)
SELECT * eq ccccc
          (SELECT is active)

SELECT jobname eq aaaa
          (SELECT is active)
SELECT or * eq bbbb
```

オプション

```
(SELECT is active)
SELECT or * eq cccc
  (SELECT is active)
```

STATUS

製品および環境の情報を表示します。

新規データフィールド:

- 識別
 - ユーザ名 - <username>
 - ユーザ Id - <userid>
 - 現在のプロファイル
 - プロファイル Id - <profid>
 - ステータス - <status>
 - デフォルト - <default>
 - オーナ - <owner>
 - 変更済み - <altered>
 - 長さ - <length>
 - バージョン - <version>
 - 更新ユーザ Id - <lastupduser>
 - 更新日 - <lastupddate>
 - 更新時刻 - <lastupdtme>
 - 初期プロファイル
 - プロファイル Id - <profid>
 - ステータス - <status>
 - デフォルト - <default>
 - オーナ - <owner>
 - 長さ - <length>
 - バージョン - <version>
 - 更新ユーザ Id - <lastupduser>
 - 更新日 - <lastupddate>
 - 更新時刻 - <lastupdtme>
 - セキュリティ
 - グループ - <groupname>

説明 - <descr>

オーナ - <owner>

バージョン - <version>

更新ユーザ Id - <lastupduser>

更新日 - <lastupddate>

更新時刻 - <lastupdtime>

- データセット
 - ライブラリ連結データセットのリスト。
- 環境
 - チャネルSSID

TOPICS

ヘルプ トピック ナレッジベース

コマンドが拡張され、ライブラリ連結をサポートするようになりました。

構文：

TOPICS	member
	dsname(member)

変更された構文パラメータ

- **dsname** - そのメンバが含まれるライブラリのデータセット名。
データセット名は、完全修飾データセット名として指定するか、以下の特別なキーワードのいずれかを使用して指定できます。

キーワードおよび説明

- **USER** - ライブラリタイプ **PARMLIB** 用のユーザプロファイルで定義したオプションのデータセット名を使用します。

例： **USER(member)**

- **SITE** - システム設定オプション **parmlib** メンバ **GSVXSYSV** で定義されるオプションのサイト **PARMLIB** 日付セットを使用します。

例： **SITE(member)**

- **SYSTEM** - システム設定オプション **parmlib** メンバ **GSVXSYSV** で定義されるシステム **PARMLIB** データセットを使用します。

例： **SYSTEM(member)**

- **SITESYSTEM|*** - システム設定オプション **parmlib** メンバ **GSVXSYSV** で定義されるオプションのサイト **PARMLIB** データセットを使用します。サイトデータセットが定義されていない場合は、システム **PARMLIB** データセット名を使用します。

例

SITESYSTEM(member)
*(member)

TSFLIST

時系列機能リスト。

新規データフィールド:

- ディスパッチ - アドレス空間が実行可能かどうか。

以下のいずれかの値 :

- RUNNING - アドレス空間には、プロセッサで実行する 1 つ以上 作業単位 (タスクまたは SRB) があります。
- READY*nnn* - アドレス空間には、実行可能であるが、プロセッサ 上での実行を待機する 1 つ以上の作業単位 (タスクまたは SRB) があります。 *nnn* 部分は、最大 255 までのディスパッチ優先順 位です。
- 空白 - アドレス空間は実行可能ではありません。

TOTAL

合計列データの計算および表示を行います。

構文 :

```
TOTALfieldname <rows> <opts>
```

新しい「rows」パラメータが追加され、データ行のサブセットが処理 できるようになりました。

新規構文パラメータ

- rows - 処理に含められる行。 このパラメータは以下のように入力 します。

startrow-endrow
startrow/numrows

アスタリスク (*) で現在の行番号を指定できます。

*

*/numrows

*+numrows/numrows

startrow、endrow、および numrows には 1 ~ 999999999 の数値の使 用します。

rows パラメータを省略すると、すべての行が処理に含まれます。

USERS

製品のユーザを表示します。

新規データフィールド:

- **ELv** - 環境 レベル。
- **RRL** - リカバリおよび再試行 レベル。

VDEFINE

ユーザ変数を定義します。

構文 :

```
VDEFINE  name <value> <options>
options
```

このパラメータには新しいキーワード値ペア (DESCR 値) を含めることができます。

新規構文パラメータ:

- **options** - 変数のオプション。 有効な値は以下のとおりです。
 - **Descr** 値

このオプションは、変数に関する任意の説明を定義します。値には、1 ~ 32 文字の長さの任意の文字列が使用できます。値にブランクやカンマが含まれる場合は、それらを区切り文字で囲んでください。値が区切り文字で囲まれている場合および先頭が CHARS 修飾子 (「C」) の場合を除き、値の中の小文字は大文字に変換されます。

XSLIST

クロスシステムのサーバタスクを表示します。

新規データフィールド:

- **JesN** - プライマリ JES 名。

プロファイル照会キーワード

プロファイル照会コマンドが機能拡張され、以下の新規キーワードが含められるようになりました。

CURRPROFINFO

現在のプロファイル情報を照会します。

以下のメッセージは、**QUERY CURRPROFINFO** の応答メッセージです。

```
QUER009I CURRPROFINFO value is <name> <dflt>
          <stat> <owner> <altr>
```

以下の変数は、**EXTRACT CURRPROFINFO** の実行結果です。

```
SYSV_CURRPROFINFO <name> <dflt> <stat> <owner> <altr>
```

パラメータ

- **name** - 現在ロードされているプロファイル名。名前が使用可能でない場合、このパラメータには *UNKNOWN と表示されます。
- **dflt** - 現在のプロファイルロード中に使用されているデフォルトプロファイル名。名前が使用可能でない場合、このパラメータには *UNKNOWN と表示されます。
- **stat** - 現在のプロファイルステータス (以下の値のいずれか)。
 - FOUND - プロファイル名が見つかりました。
 - NOTFOUND - プロファイル名が見つかりませんでした。
 - LOADERR - プロファイルメンバを読み取ろうとしたときにエラーが発生しました。
- **owner** - 現在のプロファイルのオーナステータス (以下の値のいずれか)。
 - OWNER - このユーザ ID はプロファイルのオーナです。プロファイルは保存できます。
 - NOTOWNER - このユーザ ID はプロファイルのオーナではありません。プロファイルは保存できません。
- **altr** - 現在のプロファイルの変更ステータス (以下の値のいずれか)。
 - NOTALTER - プロファイルは変更されていません。
 - ALTERED - プロファイルは変更されています。

ENDLINECMD

行を構成する特殊文字が、行コマンドとして入力されたときに、画面上の最後の行に入力されたことを指定します。

IDMSGROUP

デフォルトの IDMS 論理グループ名を指定します。論理グループには、表示する IDMS 領域のリストが含まれます。

"GROUP name" パラメータを使用してコマンドを入力する際に、ユーザがグループ名を指定しない場合は、デフォルトの IDMS 論理グループ名が使用されます。

IDMSTGTDEF

CA IDMS プライマリ コマンドが入力されたときのデフォルトの CA IDMS ターゲット アドレス空間を指定します。

INITPROFSTAT

初期プロファイルステータスを照会します。

以下のメッセージは、**QUERY INITPROFSTAT** の応答メッセージです。

```
QUER009I INITPROFSTAT value is '<name> <dflt>  
<stat> <owner>'
```

以下の変数は、**EXTRACT INITPROFSTAT** の実行結果です。

```
SYSV_INITPROFSTAT <name> <dflt> <stat> <owner>
```

パラメータ

- **name** - 現在ロードされているプロファイル名。名前が使用可能でない場合、このパラメータには *UNKNOWN と表示されます。
- **dflt** - 現在のプロファイルロード中に使用されているデフォルトプロファイル名。名前が使用可能でない場合、このパラメータには *UNKNOWN と表示されます。
- **stat** - 現在のプロファイルステータス (以下の値のいずれか)。
 - **FOUND** - プロファイル名が見つかりました。
 - **NOTFOUND** - プロファイル名が見つかりませんでした。
 - **LOADERR** - プロファイルメンバを読み取ろうとしたときにエラーが発生しました。
- **owner** - 現在のプロファイルのオーナステータス (以下の値のいずれか)。
 - **OWNER** - このユーザ ID はプロファイルのオーナです。プロファイルは保存できます。
 - **NOTOWNER** - このユーザ ID はプロファイルのオーナではありません。プロファイルは保存できません。

HELPLIB

パーソナルヘルプデータセットの名前を設定します。完全修飾データセット名を区切り文字で囲んで指定します。区切り文字を省略する場合、データセット名のプレフィックスは、データセット名に追加された状態で残ります。データセット名のプレフィックスの詳細については、DSNAMEPREFIX キーワードを参照してください。値は、1～44 文字の有効なデータセット名であることが必要です。

PANELLIB

パーソナルパネルデータセットの名前を設定します。完全修飾データセット名を区切り文字で囲んで指定します。区切り文字を省略する場合、データセット名のプレフィックスは、データセット名に追加された状態で残ります。データセット名のプレフィックスの詳細については、DSNAMEPREFIX キーワードを参照してください。値は、1～44 文字の有効なデータセット名であることが必要です。

TEMPLATELIB

パーソナルテンプレートデータセットの名前を設定します。完全修飾データセット名を区切り文字で囲んで指定します。区切り文字を省略する場合、データセット名のプレフィックスは、データセット名に追加された状態で残ります。データセット名のプレフィックスの詳細については、DSNAMEPREFIX キーワードを参照してください。値は、1～44 文字の有効なデータセット名であることが必要です。

置換シンボリック変数

以下の新しい置換シンボリック変数がベース製品に追加されました。

注: 完全なリアルタイム リストを表示する場合は、VLIST コマンドを使用してください。

- **&SITE_CAPDHLQ** - 変数は定義されていません、データ セットは存在しません
- **&SITE_CAPIHLQ** - 変数は定義されていません、データ セットは存在しません
- **&SITE_CAPINDEX** - 変数は定義されていません、データ セットは存在しません
- **&SITE_CAPLIB** - サイト CAPLIB データ セット
- **&SITE_CLISTLIB** - サイト CLISTLIB データ セット
- **&SITE_DATALIB** - 変数は定義されていません、データ セットは存在しません
- **&SITE_HELPLIB** - サイト HELPLIB データ セット
- **&SITE_MAPLIB** - サイト MAPLIB データ セット
- **&SITE_MIBLIB** - サイト MIBLIB データ セット
- **&SITE_PANELLIB** - サイト PANELLIB データ セット
- **&SITE_PARMLIB** - サイト PARMLIB データ セット
- **&SITE_PLOTLIB** - サイト PLOTLIB データ セット
- **&SITE_PROFILE** - 変数は定義されていません、データ セットは存在しません
- **&SITE_REXXLIB** - サイト REXXLIB データ セット
- **&SITE_SAMPLIB** - 変数は定義されていません、データ セットは存在しません
- **&SITE_SECURITY** - 変数は定義されていません、データ セットは存在しません
- **&SITE_TEMPLATE** - サイト TEMPLATE データ セット
- **&SYSTEM_CAPDHLQ** - システム CAPTURE データ セット高レベル修飾子
- **&SYSTEM_CAPIHLQ** - システム CAPINDEX 高レベル修飾子
- **&SYSTEM_CAPINDEX** - システム CAPINDEX データ セット

- &SYSTEM_CAPLIB - システム CAPLIB データ セット
- &SYSTEM_CLISTLIB - システム CLISTLIB データ セット
- &SYSTEM_DATALIB - システム DATALIB データ セット
- &SYSTEM_HELPLIB - システム HELPLIB データ セット
- &SYSTEM_MAPLIB - システム MAPLIB データ セット
- &SYSTEM_MIBLIB - システム MIBLIB データ セット
- &SYSTEM_PANELLIB - システム PANELLIB データ セット
- &SYSTEM_PARMLIB - システム PARMLIB データ セット
- &SYSTEM_PLOTLIB - システム PLOTLIB データ セット
- &SYSTEM_PROFILE - システム PROFILE データ セット
- &SYSTEM_REXXLIB - システム REXXLIB データ セット
- &SYSTEM_SAMPLIB - システム SAMPLIB データ セット
- &SYSTEM_SECURITY - システム SECURITY データ セット
- &SYSTEM_TEMPLATE - システム TEMPLATE データ セット
- &USER_CAPDHLQ - ユーザ CAPTURE データ セット高レベル修飾子
- &USER_CAPIHLQ - ユーザ CAPINDEX データ セット高レベル修飾子
- &USER_CAPINDEX - ユーザ CAPINDEX データ セット
- &USER_CAPLIB - 変数は定義されていません、データ セットは存在しません
- &USER_CLISTLIB - ユーザ CLISTLIB データ セット
- &USER_DATALIB - 変数は定義されていません、データ セットは存在しません
- &USER_HELPLIB - ユーザ HELPLIB データ セット
- &USER_MAPLIB - ユーザ MAPLIB データ セット
- &USER_MIBLIB - ユーザ MIBLIB データ セット
- &USER_PANELLIB - ユーザ PANELLIB データ セット
- &USER_PARMLIB - ユーザ PARMLIB データ セット
- &USER_PLOTLIB - ユーザ PLOTLIB データ セット
- &USER_PROFILE - 変数は定義されていません、データ セットは存在しません

- **&USER_REXXLIB** - 変数は定義されていません、データ セットは存在しません
- **&USER_SAMPLIB** - 変数は定義されていません、データ セットは存在しません
- **&USER_SECURITY** - 変数は定義されていません、データ セットは存在しません
- **&USER_TEMPLATE** - ユーザ TEMPLATE データ セット

[z/OS コンポーネントの拡張](#)

CA SYSVIEW for z/OS コンポーネントが拡張されました。

[z/OS コンポーネントに追加されたコマンド](#)

以下のコマンドがベース製品に追加されました。

ALERTSUM

現在の例外アラート サマリを表示します。

ASLOCKS

Address Space Suspend Locks データを表示します。

HCLOG

Health Checker ログを表示します。

MODXREF

モジュール相互参照データを表示します。

z/OS コンポーネントで拡張されたコマンド

既存のコマンドに、以下の拡張が行われました。

ACTIVITY

システムアクティビティを表示します。

新規データフィールド:

- ディスパッチ - アドレス空間が実行可能かどうか。
- 以下の一いずれかの値 :
 - RUNNING - アドレス空間には、プロセッサで実行する 1 つ以上の作業単位 (タスクまたは SRB) があります。
 - READYnnn - アドレス空間には、実行可能であるが、プロセッサ上で実行を待機する 1 つ以上の作業単位 (タスクまたは SRB) があります。 nnn 部分は、最大 255 までのディスパッチ優先順位です。
 - 空白 - アドレス空間は実行可能ではありません。
- PASID - OpenMVS プロセス親 ASID。
- PJobname - OpenMVS プロセス親ジョブ名。

変更されたデータフィールド

- JobClass - ジョブ入力クラスを指定します。このフィールドは、JES3 について入力されます。
- Notify - ジョブのジョブステートメントからの NOTIFY フィールド。このフィールドは、JES3 について入力されます。
- Programmer - ジョブのジョブステートメントからのプログラマ名。このフィールドは、JES3 について入力されます。

ALERTS

MVS 例外アラートを表示します。

構文:

```
ALERTS      < WARNING      | NORMAl      >
            < THRESH       | ALL         >
            < DETAIL       | SUMMARY     >
            < STATS        | NOSTATS    >
            < DESC         | NODESC     >
            < ACK          | NOACK      >
            < NOXSData    | XSData     >
            < NOXSYStem  | XSYStem   >
```

```
< NAME          name      >  
  
< REsource      resource >  
< RSCE          resource >  
< ARGument     resource >  
  
< ALIAS         alias     >  
< ALTID         altid     >  
< GROUP         group    >  
< SUBGroup      subgroup >  
< SUMMGRP       summgrp >
```

新規構文パラメータ:

- SUMMGRP *summgrp* - 表示を SummGrp フィールドで対応する値を持つエントリのみに制限します。

新規データフィールド

- SummGrp - サマリ グループ ID。

APPLMON

VTAM アプリケーションモニタの可用性サマリを表示します。

コマンドが拡張され、ライブラリ連結をサポートするようになりました。

変更された サブコマンド構文パラメータ:

データ セットの特定のメンバへのエクスポート定義。

構文 :

```
EXPORT member
       dsname(member)
```

パラメータおよび説明

- *member* - 保存されるメンバの名前。
- *dsname* - 指定されたメンバが保存されるデータ セット名。
データ セット名は、完全修飾データ セット名として指定するか、以下の特別なキーワードのいずれかを使用して指定できます。

キーワードおよび説明

- **USER** - ライブラリタイプ PARMLIB 用のユーザプロファイルで定義したオプションのデータ セット名を使用します。
例 : **USER(*member*)**
- **SITE** - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるオプションのサイト PARMLIB 日付セットを使用します。
例 : **SITE(*member*)**
- **SYSTEM** - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるシステム PARMLIB データ セットを使用します。
例 : **SYSTEM(*member*)**
- **SITESYSTEM|*** - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるオプションのサイト PARMLIB データ セットを使用します。サイトデータ セットが定義されていない場合は、システム PARMLIB データ セット名を使用します。

例

```
SITESYSTEM(member)
           *(member)
```

ASCANCEL

アドレス空間をキャンセルします。

ASCANCEL コマンドが更新され、新しいアドレス空間 TYPE オペランドをサポートするようになりました。

構文：

```
ASCANCEL <asid> <TYPE astype> <infokwd>
```

パラメータおよび説明

- **TYPE *astype*** - *asid* パラメータがジョブ名または FIRST、NEXT、PREVIOUS、または LAST キーワードである場合のみ、TYPE パラメータを指定します。
このパラメータは、特定のアドレス空間タイプと一致する可能性を制限するために使用されます。
- ***astype*** - この値に対する以下のいずれかのキーワードを指定します。
 - ANY - (デフォルト) 任意のアドレス空間タイプ。
 - ATX - APPC トランザクション。
 - INIT - イニシエータ。
 - JOB - バッチ ジョブ。
 - OTX - OMVS トランザクション。
 - STC - スターティッド タスク。
 - SYS - システム タスク。
 - TSU - TSO ユーザ。

ASCANTSK

アドレス空間内のタスクをキャンセルします。

ASCANTSKL コマンドが更新され、新しいアドレス空間 TYPE オペランドをサポートするようになりました。

構文：

```
ASCANTSK <asid> <TYPE astype> <infokwd>
```

パラメータおよび説明

- **TYPE *astype*** - *asid* パラメータがジョブ名または FIRST、NEXT、PREVIOUS、または LAST キーワードである場合のみ、TYPE パラメータを指定します。
このパラメータは、特定のアドレス空間タイプと一致する可能性を制限するために使用されます。
- ***astype*** - この値に対する以下のいずれかのキーワードを指定します。
 - ANY - (デフォルト) 任意のアドレス空間タイプ。
 - ATX - APPC トランザクション。
 - INIT - イニシエータ。
 - JOB - バッチ ジョブ。
 - OTX - OMVS トランザクション。
 - STC - スターティッド タスク。
 - SYS - システム タスク。
 - TSU - TSO ユーザ。

ASFORCE

アドレス空間を強制します。

ASFORCE コマンドが更新され、新しいアドレス空間 TYPE オペランドをサポートするようになりました。

構文：

```
ASFORCE <asid> <TYPE astype> <infokwd>
```

パラメータおよび説明

- **TYPE *astype*** - asid パラメータがジョブ名または FIRST、NEXT、PREVIOUS、または LAST キーワードである場合のみ、TYPE パラメータを指定します。
このパラメータは、特定のアドレス空間タイプと一致する可能性を制限するために使用されます。
- ***astype*** - この値に対する以下のいずれかのキーワードを指定します。
 - ANY - (デフォルト) 任意のアドレス空間タイプ。
 - ATX - APPC トランザクション。
 - INIT - イニシエータ。
 - JOB - バッチ ジョブ。
 - OTX - OMVS トランザクション。
 - STC - スターティッド タスク。
 - SYS - システム タスク。
 - TSU - TSO ユーザ。

ASID

ターゲットアドレス空間を設定します。

ASID コマンドが更新され、新しいアドレス空間 TYPE オペランドをサポートするようになりました。

構文：

ASID <asid<.dspname>> <option> <TYPE astype>

パラメータおよび説明

- **TYPE astype** - asid パラメータがジョブ名または FIRST、NEXT、PREVIOUS、または LAST キーワードである場合のみ、TYPE パラメータを指定します。
このパラメータは、特定のアドレス空間タイプと一致する可能性を制限するために使用されます。
- **astype** - この値に対する以下のいずれかのキーワードを指定します。
 - ANY - (デフォルト) 任意のアドレス空間タイプ。
 - ATX - APPC トランザクション。
 - INIT - イニシエータ。
 - JOB - バッチ ジョブ。
 - OTX - OMVS トランザクション。
 - STC - スターティッド タスク。
 - SYS - システム タスク。
 - TSU - TSO ユーザ。

ASKILL

ターゲットアドレス空間を削除します。

ASKILL コマンドが更新され、新しいアドレス空間 TYPE オペランドをサポートするようになりました。

構文：

```
ASID <asid> <TYPE astype> <infokwd>
```

パラメータおよび説明

- **TYPE *astype*** - asid パラメータがジョブ名または FIRST、NEXT、PREVIOUS、または LAST キーワードである場合のみ、TYPE パラメータを指定します。
このパラメータは、特定のアドレス空間タイプと一致する可能性を制限するために使用されます。
- ***astype*** - この値に対する以下のいずれかのキーワードを指定します。
 - ANY - (デフォルト) 任意のアドレス空間タイプ。
 - ATX - APPC トランザクション。
 - INIT - イニシエータ。
 - JOB - バッチ ジョブ。
 - OTX - OMVS トランザクション。
 - STC - スターティッド タスク。
 - SYS - システム タスク。
 - TSU - TSO ユーザ。

ASLIST

アドレス空間情報を表示します。

新規データフィールド:

- ディスパッチ - アドレス空間が実行可能かどうか。

以下のいずれかの値 :

- RUNNING - アドレス空間には、プロセッサで実行する 1 つ以上 作業単位 (タスクまたは SRB) があります。
- READY*nnn* - アドレス空間には、実行可能であるが、プロセッサ 上での実行を待機する 1 つ以上の作業単位 (タスクまたは SRB) があります。 *nnn* 部分は、最大 255 までのディスパッチ優先順 位です。
- 空白 - アドレス空間は実行可能ではありません。

- SMC - アドレス空間内の未処理の Step-Must-Complete リクエスト の数。

ASNOSWAP

スワップ不可なものとしてアドレス空間を設定します。

ASNOSWAP コマンドが更新され、新しいアドレス空間 TYPE オペランドをサポートするようになりました。

構文：

```
ASNOSWAP <asid> <TYPE astype> <infokwd>
```

パラメータおよび説明

- **TYPE *astype*** - *asid* パラメータがジョブ名または FIRST、NEXT、PREVIOUS、または LAST キーワードである場合のみ、TYPE パラメータを指定します。

このパラメータは、特定のアドレス空間タイプと一致する可能性を制限するために使用されます。

- ***astype*** - この値に対する以下のいずれかのキーワードを指定します。
 - ANY - (デフォルト) 任意のアドレス空間タイプ。
 - ATX - APPC トランザクション。
 - INIT - イニシエータ。
 - JOB - バッチ ジョブ。
 - OTX - OMVS トランザクション。
 - STC - スターティッド タスク。
 - SYS - システム タスク。
 - TSU - TSO ユーザ。

ASOKSWAP

アドレス空間をスワップ可能に設定します。

ASOKSWAPL コマンドが更新され、新しいアドレス空間 TYPE オペランドをサポートするようになりました。

構文：

```
ASOKSWAP <asid> <TYPE astype> <infokwd>
```

パラメータおよび説明

- **TYPE astype** - asid パラメータがジョブ名または FIRST、NEXT、PREVIOUS、または LAST キーワードである場合のみ、TYPE パラメータを指定します。
このパラメータは、特定のアドレス空間タイプと一致する可能性を制限するために使用されます。
- **astype** - この値に対する以下のいずれかのキーワードを指定します。
 - ANY - (デフォルト) 任意のアドレス空間タイプ。
 - ATX - APPC トランザクション。
 - INIT - イニシエータ。
 - JOB - バッチ ジョブ。
 - OTX - OMVS トランザクション。
 - STC - スターティッド タスク。
 - SYS - システム タスク。
 - TSU - TSO ユーザ。

ASQUERY

アドレス空間変数にクエリを行います。

ASQUERY コマンドが更新され、新しいアドレス空間 TYPE オペランドをサポートするようになりました。

構文：

```
ASQUERY <asid> <TYPE astype> <infokwd>
```

パラメータおよび説明

- **TYPE *astype*** - asid パラメータがジョブ名または FIRST、NEXT、PREVIOUS、または LAST キーワードである場合のみ、TYPE パラメータを指定します。
このパラメータは、特定のアドレス空間タイプと一致する可能性を制限するために使用されます。
- ***astype*** - この値に対する以下のいずれかのキーワードを指定します。
 - ANY - (デフォルト) 任意のアドレス空間タイプ。
 - ATX - APPC トランザクション。
 - INIT - イニシエータ。
 - JOB - バッチ ジョブ。
 - OTX - OMVS トランザクション。
 - STC - スターティッド タスク。
 - SYS - システム タスク。
 - TSU - TSO ユーザ。

ASQUIESC

アドレス空間を休止に設定します。

ASQUIESC コマンドが更新され、新しいアドレス空間 TYPE オペランドをサポートするようになりました。

構文：

```
ASQUIESC <asid> <TYPE astype> <infokwd>
```

パラメータおよび説明

- **TYPE *astype*** - *asid* パラメータがジョブ名または FIRST、NEXT、PREVIOUS、または LAST キーワードである場合のみ、TYPE パラメータを指定します。
このパラメータは、特定のアドレス空間タイプと一致する可能性を制限するために使用されます。
- ***astype*** - この値に対する以下のいずれかのキーワードを指定します。
 - ANY - (デフォルト) 任意のアドレス空間タイプ。
 - ATX - APPC トランザクション。
 - INIT - イニシエータ。
 - JOB - バッチ ジョブ。
 - OTX - OMVS トランザクション。
 - STC - スターティッド タスク。
 - SYS - システム タスク。
 - TSU - TSO ユーザ。

ASRESUME

アドレス空間を非休止に設定します。

ASRESUME コマンドが更新され、新しいアドレス空間 TYPE オペランドをサポートするようになりました。

構文：

```
ASRESUME <asid> <TYPE astype> <infokwd>
```

パラメータおよび説明

- **TYPE *astype*** - *asid* パラメータがジョブ名または FIRST、NEXT、PREVIOUS、または LAST キーワードである場合のみ、TYPE パラメータを指定します。
このパラメータは、特定のアドレス空間タイプと一致する可能性を制限するために使用されます。
- ***astype*** - この値に対する以下のいずれかのキーワードを指定します。
 - ANY - (デフォルト) 任意のアドレス空間タイプ。
 - ATX - APPC トランザクション。
 - INIT - イニシエータ。
 - JOB - バッチ ジョブ。
 - OTX - OMVS トランザクション。
 - STC - スターティッド タスク。
 - SYS - システム タスク。
 - TSU - TSO ユーザ。

ASSET

アドレス空間属性を設定します。

ASSET コマンドが更新され、新しいアドレス空間 TYPE オペランドをサポートするようになりました。

構文：

```
ASSET <asid> function <value> <options TYPE astype>
```

パラメータおよび説明

- **TYPE *astype*** - asid パラメータがジョブ名または FIRST、NEXT、PREVIOUS、または LAST キーワードである場合のみ、TYPE パラメータを指定します。
このパラメータは、特定のアドレス空間タイプと一致する可能性を制限するために使用されます。
- ***astype*** - この値に対する以下のいずれかのキーワードを指定します。
 - ANY - (デフォルト) 任意のアドレス空間タイプ。
 - ATX - APPC トランザクション。
 - INIT - イニシエータ。
 - JOB - バッチ ジョブ。
 - OTX - OMVS トランザクション。
 - STC - スターティッド タスク。
 - SYS - システム タスク。
 - TSU - TSO ユーザ。

CPU

CPU 情報を表示します。

新規データフィールド

- **PSACLHSE** - PSACLHSE フィールドのコンテンツ（現在のロックは文字列拡張を保持しました）。

DSALLOC

ジョブに割り当てられたデータ セットを表示します。

新規データフィールド:

- DASp - DDname に DD アカウンティング抑制属性がある場合、この値は DASp になります。そうでない場合、空白になります。

DDname アカウンティングが抑制される場合、以下のフィールドには値がなく、空白が表示されます。

- IOCtl - I/O 数。
- IORt - I/O レート。
- TCTE - TCT DD エントリ アドレス。

- Dest - システム出力送信先。
- Type - 表示されたエントリのタイプ。

有効な値は以下の通りです。

- DATASET - データ セット
- DUMMY - ダミー データ セット
- SYSOUT - SYSOUT データ セット
- SYSIN - SYSIN データ セット
- TERMINAL - 端末
- OMVSPATH - OMVS パス名
- CONSOLE - コンソール
- UNKNOWN - 不明
- DEVICE - マルチボリューム データ セット用の 2 ~ n 番目のデバイス。

- Userid - sysout リモート ユーザ ID。

DSSEERV

データセットサービス。

DELETE サブコマンドは、複数のボリュームおよびアーカイブ済みデータセットの削除をサポートします。

新規サブコマンド

- **ALCONCat** - このサービスはデータセットを割り当てて、それを **ddname** に連結します。**ddname** がまだ割り当てられていない場合、このサービスは **ALLOCATE** サービスに相当します。

LISTDIR

PDS ディレクトリを表示します。

新規データフィールド:

- **Owner** - モジュール識別子オーナのユーザ ID。

HCHECKER

Health Checker 情報を表示します。

新規行コマンド:

- **History** - 選択されたオーナおよびチェック名の履歴ログ レコードを表示する、**HCLOG** コマンドを呼び出します。

HCOWNER

Health Checker オーナのサマリを表示します。

新規行コマンド:

- **History** - 選択されたオーナおよびチェック名の履歴ログ レコードを表示する、**HCLOG** コマンドを呼び出します。

HCMSGS

Health Checker メッセージを表示します。

構文:

HCMSGS オーナ確認 <options>

または

HCMSGS BLOCKID ブロック ID <options>

新規構文パラメータ:

- BLOCKID - BLOCKID キーワードおよび値は、Health Check ログストリームが特定のメッセージブロックの読み取りをリクエストするために使用されます。BLOCKID 値は、16 進数ですべてゼロにすることはできません。BLOCKID キーワードと値は、IBM Health Checker がログストリームにチェック出力メッセージを書き込んでいるときにのみ有効です。

HCLOG コマンドは、Health Checker ログストリームに書き込まれた記録を表示します。表示されたデータには Block ID 値が含まれます。HCLOG 表示上の S<select> 行コマンドは、選択されたブロック ID の HCMSGS コマンドを呼び出します。

IPLINFO

IPL 情報。

セクション用の新しいデータ フィールド：一般

- MACHMIG ステートメント

セクション用の新しいデータ フィールド： IEASYS

- GTZ - システムが使用する Generic Tracker parmlib メンバ (GTZPRMxx) の 1 つ以上のサフィックスを指定します。このパラメータは z/OS 2.1 以上でのみ有効です。

- HZS - このパラメータは、システムが使用する z/OS parmlib メンバ HZSPRMxx 用のオプションの IBM Health Checker の 1 つ以上のサフィックスを指定します。

aa または *bb* などによって表される 2 文字は、HZSPRM に追加されます。 HZSPRM=SYSPARM (または IPL 時間の HZSPRM=PREV) が z/OS 用の IBM Health Checker の HZSPROC スタートアップ手順で指定される場合、これは、HZSPRMxx メンバの名前を形成します。 HZS パラメータは z/OS 2.1 以上でのみ有効です。

- HZSPROC - このパラメータは、IPL 時間で z/OS 用の IBM Health Checker を自動的に開始するためにシステムが使用する HZSPROC 手順の名前を指定します。

デフォルトの HZSPROC 以外の名前を使用する場合は、このパラメータを指定します。指定された手順は、SYS1.PROCLIB データセット内にあることが必要です。

HZSPROC パラメータは z/OS 2.1 以上でのみ有効です。

- PAGESCM - このパラメータは、補助ストレージとして使用可能になるための最小限の SCM ストレージを指定します。システムは、補助ストレージとしてその後使用するために IPL 中にこの量を予約します。この初期量の使用が超えた場合、必要に応じて追加のスペースが割り当てられます。 PAGESCM パラメータは z/OS 2.1 以上でのみ有効です。

- WARNUND - このパラメータは、新しいシステム パラメータに促すよりも未定義のシステム パラメータが見つかったときに、システムがユーザに警告するように求めます。 WARNUND パラメータは z/OS 2.1 以上でのみ有効です。

LGBROWSE

ログストリームからの読み取りおよび書き込みに使用される CA SYSVIEW ログストリーム技術により、大幅なパフォーマンス向上が提供されるようになりました。

この拡張機能には以下の利点があります。

- ログストリームから読み取りおよび書き込みするための CPU 使用を縮小しました。
- ログストリームから大量のレコードを読み取るために必要な経過時間が短縮されました。

LINES パラメータのデフォルト値および最大値が調整されました。

パラメータ

- **LINES**

新しいデフォルト値： 25,000

新しい最大値： 1,000,000

古いデフォルト値： 5,000

古い最大値： 100,000

この **LINES** 値はユーザプロファイルに格納されます。希望のプライマリコマンドから以下のコマンドを発行することにより、保存されているデフォルト値を変更できます。

OPTIONS LINE nnnnn

LGSTREAM

ログストリーム定義を表示します。

新規データフィールド：

- **WPRI - WARNPRIMARY (YES)** がログストリーム定義に対して指定されたときに **WPRI** を表示します。それ以外の場合は空白。
- **WPRI** は、ログストリームモニタリング警告メッセージが以下の条件に対して発行されるべきであることを示します。
 - ログストリームプライマリ（中間）ストレージ消費が **HIGHOFFLOAD** 値と 100 パーセントの間で 2/3 の場合。
 - CF ベースのログストリームについては、90 パーセントのエントリがいっぱいの状態が発生した場合。
 - 中間（プライマリ）ストレージがいっぱいの状態が発生した場合。

WPRI は z/OS 2.1.0 以上でのみ可能です。

- ZAI - IBM zAware サーバに送信されたログストリームデータが欲しい場合は ZAI。それ以外の場合は空白。
- ZAIData - z/OS IBM ログストリーム クライアントが確立されるときに、IBM zAware サーバに渡された目的のログストリーム関連のデータ。

LISTDIR

リスト PDS ディレクトリ

新規データフィールド:

- Owner - モジュール識別子オーナのユーザ ID。

このフィールドは選択された CA 製品にのみ使用可能です。

LISTMODS

製品モジュールステータス

新規データフィールド:

- Owner - モジュール識別子オーナのユーザ ID。

このフィールドは選択された CA 製品にのみ使用可能です。

LSRPOOLS

ローカル共有リソース プールを表示します。

新規データフィールド

- HStg - バッファが使用するハイパースペースストレージの総量。

MOBJECTS

メモリオブジェクトサマリを表示します。

新規情報セクションフィールド

- LFArea
- Reconfig
- NonReconfig
- Used

広いフレーム領域 (LFAREA)、再構成可能なサイズ、再構成が不可能なサイズ、および使用されるパーセンテージの合計。

MODULES

ストレージ常駐モジュールに関する情報を表示します。

新規データフィールド

- Owner - モジュール識別子オーナのユーザ ID。このフィールドは選択された CA 製品にのみ使用可能です。

MONITOR

MVS モニタ定義を表示します。

コマンドが拡張され、ライブラリ連結をサポートするようになりました。

変更された サブコマンド構文パラメータ:

データ セットの特定のメンバへのエクスポート定義。

構文 :

```
EXPORT member
       dsname(member)
```

パラメータおよび説明

- *member* - 保存されるメンバの名前。
- *dsname* - 指定されたメンバが保存されるデータ セット名。
データ セット名は、完全修飾データ セット名として指定するか、以下の特別なキーワードのいずれかを使用して指定できます。

キーワードおよび説明

- **USER** - ライブラリタイプ PARMLIB 用のユーザプロファイルで定義したオプションのデータ セット名を使用します。
例 : **USER(*member*)**
- **SITE** - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるオプションのサイト PARMLIB 日付セットを使用します。
例 : **SITE(*member*)**
- **SYSTEM** - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるシステム PARMLIB データ セットを使用します。
例 : **SYSTEM(*member*)**
- **SITESYSTEM|*** - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるオプションのサイト PARMLIB データ セットを使用します。サイトデータ セットが定義されていない場合は、システム PARMLIB データ セット名を使用します。

例

```
SITESYSTEM(member)
          *(member)
```

PAGEDS

ページデータ セットに関する情報を表示します。

行コマンドの変更

- Add - 新しい LOCAL ページデータ セットを追加するか、または以前 ドレインされた LOCAL ページデータ セットを読み取り/書き込み モードにリストアします。 コマンド確認が追加されました。
- DRain - LOCAL ページデータ セットを読み取り専用にします。 コマ ンド確認が追加されました。
- DElete - システム使用から LOCAL ページデータ セットを削除しま す。 コマンド確認が追加されました。

PFT

Page Frame Table 内の情報を表示します。

新規データフィールド:

- L - フレームが 1 MB のページを保持するために使用できる、256 の 隣接フレームのグループ内にある場合、この値は L になります。
- E - ユーザが 1 MB のページを保持するためにフレームを 256 の隣 接フレームのグループに改良したい場合、この値は E になります。
- M - フレームが共有された 1 MB の大きなページを支持している場 合、この値は M になります。
- H - フレームが高い仮想の共有ページを支持している場合、この値 は H になります。

PLOTLOG

履歴プロット ログを表示します。

ログストリームからの読み取りおよび書き込みに使用される CA SYSVIEW ログストリーム技術により、大幅なパフォーマンス向上が提供されるようになりました。

この拡張機能には以下の利点があります。

- ログストリームから読み取りおよび書き込みするための CPU 使用を縮小しました。
- ログストリームから大量のレコードを読み取るために必要な経過時間が短縮されました。

LINES パラメータのデフォルト値および最大値が調節されました。

パラメータ

- **LINES**

新しいデフォルト値 : 25,000

新しい最大値 : 1,000,000

古いデフォルト値 : 5,000

古い最大値 : 100,000

この **LINES** 値はユーザプロファイルに格納されます。希望のプリマリコマンドから以下のコマンドを発行することにより、保存されているデフォルト値を変更できます。

OPTIONS LINE nnnnn

PROCLIST

JES プロシージャ ライブラリを表示します。

サポートが JES3 に追加されました。

STATES

状態モニタ定義を表示します。

コマンドが拡張され、ライブラリ連結をサポートするようになりました。

変更された サブコマンド構文パラメータ:

データセットの特定のメンバへのエクスポート定義。

構文 :

```
EXPORT member  
       dsname(member)
```

パラメータおよび説明

- *member* - 保存されるメンバの名前。
- *dsname* - 指定されたメンバが保存されるデータセット名。
データセット名は、完全修飾データセット名として指定するか、以下の特別なキーワードのいずれかを使用して指定できます。

キーワードおよび説明

- **USER** - ライブラリタイプ PARMLIB 用のユーザプロファイルで定義したオプションのデータセット名を使用します。
例 : **USER(*member*)**
- **SITE** - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるオプションのサイト PARMLIB 日付セットを使用します。
例 : **SITE(*member*)**
- **SYSTEM** - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるシステム PARMLIB データセットを使用します。
例 : **SYSTEM(*member*)**
- **SITESYSTEM|*** - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるオプションのサイト PARMLIB データセットを使用します。サイトデータセットが定義されていない場合は、システム PARMLIB データセット名を使用します。

例

```
SITESYSTEM(member)  
          *(member)
```

SYSTEMS

[Systems Overview] メニューを表示します。

新規データフィールド:

- IDMS - IDMS コンポーネントは特定のシステムでアクティブです。
- JesN - プライマリ JES 名。

TASK

ジョブのタスク情報を表示します。

以下のフィールドにカーソルを位置付けし <ENTER> を押すと、選択されたフィールドおよびアドレス用の MAP コマンドが呼び出されます。

- TCB
- RB
- STCB
- XSB
- OTCB
- OTCBCOPYONFORK
- THLI
- PRLI

削除された行コマンド

- MTcb - MAP コマンドを呼び出して、TCB をマップします
- MStcb - MAP コマンドを呼び出して、STCB をマップします
- MRb - MAP コマンドを呼び出して、RB をマップします
- MXsb- - MAP コマンドを呼び出して、XSB をマップします
- MOTcb - MAP コマンドを呼び出して、OTCB をマップします
- MOCof - MAP コマンドを呼び出して、OTBCOPYONFORK をマップします
- MTHli - MAP コマンドを呼び出して、THLI をマップします

新規データフィールド

- ThreadId - OMVS スレッド ID。

THRESH

現在のしきい値定義を表示します。

コマンドが拡張され、ライブラリ連結をサポートするようになりました。

変更された サブコマンド構文パラメータ:

データ セットの特定のメンバへのエクスポート定義。

構文 :

```
EXPORT member  
       dsname(member)
```

パラメータおよび説明

- *member* - 保存されるメンバの名前。
- *dsname* - 指定されたメンバが保存されるデータ セット名。
データ セット名は、完全修飾データ セット名として指定するか、以下の特別なキーワードのいずれかを使用して指定できます。

キーワードおよび説明

- **USER** - ライブラリタイプ PARMLIB 用のユーザプロファイルで定義したオプションのデータ セット名を使用します。
例 : **USER(*member*)**
- **SITE** - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるオプションのサイト PARMLIB 日付セットを使用します。
例 : **SITE(*member*)**
- **SYSTEM** - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるシステム PARMLIB データ セットを使用します。
例 : **SYSTEM(*member*)**
- **SITESYSTEM|*** - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるオプションのサイト PARMLIB データ セットを使用します。サイトデータ セットが定義されていない場合は、システム PARMLIB データ セット名を使用します。

例

```
SITESYSTEM(member)  
          *(member)
```

TRACE

システム トレースの状態を表示します。

新規データフィールド:

- PSACLHSE - PSACLHSE フィールドのコンテンツ（現在のロックは文字列拡張を保持しました）。

UPROCESS

USS プロセスに関する情報を表示します。

Cross-System データでこのコマンドが有効になりました。

新規データフィールド

- Type - アドレス空間タイプ。
- PASID - 親プロセス ASID。
- PJobname - 親プロセス ジョブ名。
- PType - 親プロセス アドレス空間タイプ。
- PJobnr - 親プロセス ジョブ番号。
- PUserId - 親プロセス ユーザ ID。

VARS

使用可能なモニタリング変数を表示します。

新規データフィールド:

- SummGrp - サマリ グループ ID

WMPOLICY

WLM サービス ポリシー情報を表示します。

名前が変更されたデータフィールド

新しいフィールド名 : *

古いフィールド名 : フィールド。

XLOG

例外ログを表示します。

構文 :

```
XLOG< STREAM      logstream  >
      < TIME       time | *   >
      < DATE       date | *   >
      < LINES      count    >
      < LIMIT      count    >
      < PERIOD     seconds  >
      < JOBName    jobname  >
      < NAME       name     >
      < RSCE1      rsce1    >
      < RSCE2      rsce2    >
      < OWNER      owner    >
      < RULEtype   rule     >
      < SUMMGRP    summgrp  >
      < AUTO | DEFAULT >
      < CICS       >
```

新規構文パラメータ:

- SUMMGRP - 表示を SummGrp フィールドで対応する値を持つエントリのみに制限します。

ログストリームからの読み取りおよび書き込みに使用される CA SYSVIEW ログストリーム技術により、大幅なパフォーマンス向上が提供されるようになりました。

この拡張機能には以下の利点があります。

- ログストリームから読み取りおよび書き込みするための CPU 使用を縮小しました。
- ログストリームから大量のレコードを読み取るために必要な経過時間が短縮されました。

LINES パラメータのデフォルト値および最大値が調節されました。

パラメータ

- LINES

新しいデフォルト値 : 25,000

新しい最大値 : 1,000,000

古いデフォルト値 : 5,000

古い最大値 : 100,000

この LINES 値はユーザ プロファイルに格納されます。希望のライマリ コマンドから以下のコマンドを発行することにより、保存されているデフォルト値を変更できます。

```
OPTIONS LINE nnnnn
```

新規データフィールド:

- SummGrp - サマリ グループ ID。

追加されたデータ収集しきい値メトリック

以下のしきい値メトリックによりデータ収集が拡張されています。

CLMOORPH

共通大規模メモリ オブジェクト数（孤立）。

リソース：なし

CLPGORPH

共通大規模ページ数（孤立）。

リソース：なし

GCAUXSCM

共通補助 SCM の総数。

リソース：なし

GCDREFR

共通 DREF ページの総数（実質）。

リソース：なし

GCLMOF

共通大規模メモリ オブジェクトの総数（固定）。

リソース：なし

GCMOALLO

共通メモリ オブジェクトの総数（割り当て済み）。

リソース：なし

GCMOR

共通メモリ オブジェクトの総数（実質）。

リソース：なし

GCPGALLO

共通メモリ ページの総数（割り当て済み）。

リソース：なし

GCPGAUX

共通メモリ ページの総数（予備）。

リソース：なし

GCPGFR

共通メモリ ページの総数 (固定) (実質)。

リソース：なし

GC1MPGFR

共通メモリ 1M ページの総数 (固定) (実質)。

リソース：なし

GC1MPGR

共通メモリ 1M ページの総数 (実質)。

リソース：なし

GPMOALLO

GP メモリ オブジェクト。

リソース：なし

GPNLFASZ

GP の再構成不能な LFA サイズ。

リソース：なし

GPNLFAUS

GP の再構成不能な LFA (使用済み)。

リソース：なし

GPPGREAL

GP ページ (実質)。

リソース：なし

GSAUX

補助ストレージで共有される総数。

リソース：なし

GSAUXSCM

補助 SCM で共有される総数。

リソース：なし

GSMOALLO

共有メモリ オブジェクトの総数 (割り当て済み)。

リソース：なし

GSPGALLO

共有メモリ ページの総数 (割り当て済み)。

リソース：なし

GSPGFR

共有メモリ ページの総数 (固定) (実質)。

リソース：なし

GSPGIN

補助からの共有ページ入力の総数。

リソース：なし

GSPGOUT

補助への共有ページ出力入力の総数。

リソース：なし

GSPGREAL

ページの総数 (実質)。

リソース：なし

GS1MPGFR

共有メモリ 1M ページの総数 (固定) (実質)。

リソース：なし

GS1MPGR

共有メモリ 1M ページの総数 (実質)。

リソース：なし

LFAGROUP

使用可能な大規模フレーム グループ。

リソース：なし

LFASINGL

使用可能な单一大規模フレーム。

リソース：なし

LMOALLOC

大規模メモリ オブジェクト (割り当て済み)。

リソース：なし

LPGREAL

大規模ページ（実質）。

リソース：なし

LPPAGE

ページング可能な大規模ページ。

リソース：なし

NLFASIZE

再構成不能な LFA サイズ。

リソース：なし

NLFAUSED

再構成不能な LFA（使用済み）。

リソース：なし

PLFGFIX

ページング可能な大規模フレーム グループ（固定）。

リソース：なし

PLFGUSED

ページング可能な大規模フレーム グループ（使用済み）。

リソース：なし

RLFASIZE

再構成可能な LFA サイズ。

リソース：なし

RLFAUSED

再構成可能な LFA（使用済み）。

リソース：なし

SGAUXSCM

SG の補助 SCM。

リソース：なし

リリース r13.5 から、IIP プロセッサ上でエンクレーブ時間および非エンクレーブ時間が含まれる CPU 時間がメトリックに含まれるようになりました。新規メトリックは、非エンクレーブ時間に対してのみ作成されています。

JOBIIIP%

IIP 使用状況のパーセンテージ。

リソース：ジョブ名

JOBIIPT%

IIP 使用状況のパーセンテージの合計。

リソース：ジョブ名

JOBIIPTM

IIP CPU のインターバル時間。

リソース：ジョブ名

JOBIIPTT

IIP CPU の合計時間。

リソース：ジョブ名

設定オプション - Parmlib メンバ - MVSVARS

VARIABLE-SET オプションを使用して、データコレクションメトリックのセットを制御できます。この新しいアクションは、CA Chorus Infrastructure Management for Networks and Systems の一部として 時系列機能に送信されるメトリックのセットを制御するために定義されています。TSF 適合として定義されるメトリックのみを有効化または無効化できます。適合性のリストは、VARS コマンドで表示できます。

VARIABLE-SET

source:variable:actions

- source - MVS を示します。
- variable - データコレクションメトリックの名前を示します。この名前は総称的に指定できます。

可変長マスク文字 : =

固定長マスク文字 : *

- actions - 以下の該当するアクションを示します。
 - ENAbled - コレクションを有効化します。
 - DISabled - コレクションを無効化します。TSF も無効化されます。
 - TSF - TSF コレクションを有効化します。メトリックも有効化される必要があります。
 - NOTSF - TSF コレクションを無効化します。

JES2 および JES3

JES2 および JES3 が機能強化されました。

追加された JES コマンド

以下の JES コマンドが追加されました。

JSYSLOGW

このコマンドは JES システム ログを表示します。

JOOUTPUTW

このコマンドは JES ジョブ出力を表示します。

拡張されたコマンド

既存のコマンドに、以下の拡張が行われました。

JOBCLASS

JES ジョブ クラスを表示します。

新規データフィールド

- SJobs - このシステム上でこのクラスにおいて実行できるジョブの最大数。無制限の場合は、* が表示されます。

このフィールドを変更するには、新しい値でフィールドを上書きします。

Option for CICS

CA SYSVIEW Option for CICS が機能強化されました。

追加されたデータコレクションリソース

データコレクションイベント機能が追加されました。

CA SYSVIEW イベントスケジューラは、データコレクションイベントの制御およびスケジュール設定を行います。この新しいイベントは、CICS データコレクタの初期化中に、既存のスケジュールに動的に追加されます。

イベントスケジューラ定義が parmlib メンバ SCHDCICS に追加されています。

- トランザクションクラス

```
DEFINE SYSTEM-TCLASS
  DESC      'System - Transaction Classes'
  GROUP    CICSDATA
  TYPE     RECUR
  ALLDAYS
  DATEBEGIN *      DATEEND *
  TIMEBEGIN MIDNIGHT  TIMEEND *
  EVERY    00:01:00
  LIMIT    NOLIMIT
  FUNCTION  SYSTEM-TCLASS
  ENABLED
ENDDEFINE
```

拡張されたコマンド

既存のコマンドに、以下の拡張が行われました。

CALERTS

CICS 例外アラートを表示します。

構文 :

```
CALERTS      < REGION | SYSTEM | XSYSTEM | NOXSYSTEM >
              < Local    | Global    | XData    | NOXData >
              < GROUP   name >
              < GROUPType  type >
              < WARNING  | NORMAL >
              < THRESH   | ALL    >
              < ACK      | NOACK  >
              < NAME     name >
              < ARG1    arg1 >
              < ARG2    arg2 >
              < SUBGroup subgroup >
              < SUMMGRP  summgrp >
```

新規構文パラメータ

- SUMMGRP - SummGrp フィールドに対応する値を持つエントリのみに表示を制限します。
- GROUPTYPE - 論理グループタイプを指定します。 グループタイプを指定しない場合、タイプ CICSPLEX が使用されます。

新規データフィールド

- SummGrp - サマリ グループ ID。

CICSLIST

CICS 領域を表示します。

新規データフィールド:

- ディスパッチ - アドレス空間が実行可能かどうか。

以下のいずれかの値 :

- RUNNING - アドレス空間には、プロセッサで実行する 1 つ以上の作業単位 (タスクまたは SRB) があります。
- READYnnn - アドレス空間には、実行可能であるが、プロセッサ上で実行を待機する 1 つ以上の作業単位 (タスクまたは SRB) があります。 nnn 部分は、最大 255 までのディスパッチ優先順位です。

オプション

- 空白 - アドレス空間は実行可能ではありません。

CICSSET

CICS リソースを変更します。

新規サブコマンドの構文

EXPORT - データ定義をエクスポートします。

構文 :

```
EXPORT datatype dsname(member)
```

パラメータおよび説明

- **datatype** - データ定義タイプ。以下のアクションが有効です。

- ARTM
- CICSOPTS
- DUMPMGT
- GROUPS
- SCHEDULE
- STATS
- THRESHOLDS
- TRANCANCEL
- TRANOPTS

- **member** - 保存されるメンバの名前。

- **dsname** - 指定したメンバを保存するデータセット名。

データセット名は、完全修飾データセット名として指定するか、以下の特別なキーワードのいずれかを使用して指定できます。

キーワードおよび説明

- **USER** - ライブラリタイプ PARMLIB 用のユーザプロファイルで定義したオプションのデータセット名を使用します。

例 : **USER(member)**

- **SITE** - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるオプションのサイト PARMLIB 日付セットを使用します。

例 : **SITE(member)**

- **SYSTEM** - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるシステム PARMLIB データセットを使用します。

例 : **SYSTEM(member)**

- SITESYSTEM|* - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるオプションのサイト PARMLIB データセットを使用します。サイトデータセットが定義されていない場合は、システム PARMLIB データセット名を使用します。

例

```
SITESYSTEM(member)
          *(member)
```

CMODS

CICS データコレクションモジュール

新規データフィールド:

- Owner - オーナユーザ ID のモジュール識別子。

CSCHEDUL

CICS スケジュール設定済みイベント

新規行コマンド

- Metrics - 選択したイベントスケジューラ機能が収集したメトリックを選択する CVARS コマンドを呼び出します。

CSYSDATA

CICS システムインターバル分析を表示します。

ログストリームから読み取りおよび書き込みを行う CA SYSVIEW ログストリーム技術により、大幅なパフォーマンス向上が提供されるようになりました。

この拡張機能には以下の利点があります。

- ログストリームから読み取りおよび書き込みするための CPU 使用を縮小しました。
- ログストリームから大量のレコードを読み取るために必要な経過時間が短縮されました。

LINES パラメータのデフォルト値および最大値が調節されました。

パラメータ

- LINES

新しいデフォルト値 : 25,000

新しい最大値 : 1,000,000

古いデフォルト値 : 5,000

古い最大値 : 100,000

この LINES 値はユーザプロファイルに格納されます。希望のプライマリコマンドから以下のコマンドを発行することにより、保存されているデフォルト値を変更できます。

OPTIONS LINE *nnnn*

CTASKS

アクティブタスクを表示します。

リソース使用状況の詳細レポートを表示するアクティブタスクを選択すると、新しい Real-Time セクションがレポートに追加されます。このセクションには、現在の待機理由が表示されます。

例

セクション : Real-Time

```
Program  WaitType  WaitName
TEST0001  TCLASS   XM_HELD
```

CTCLASS

CICS トランザクションクラスを表示します。

新規データフィールド:

- Act% - 現在アクティブな最大トランザクション数のパーセント。

CTDATA

CICS 一時データ キュー

新規データフィールド:

- Recovery - リカバリ ステータス。

設定可能な値 :

- ブランク (非パーティション間キュー)
- NO
- PHYSICAL
- LOGICAL
- パーティション間キューのみ有効です。

CTRANLOG

CICS トランザクション ログのサマリを表示します

構文 :

```
CTRANLOG  < STREAMlogstream >
            < TIME          time | *   >
            < DATE          date | *   >
            < LINES         count    >
            < LIMIT         count    >
            < PERIODseconds >

            < JOBName       jobname   >
            < TRAN          tran      >
            < UMBRELLA     umbrella  >
            < UMBTYPE       umbtype   >
            < CLIENT         client    >
            < WEBSERVICE    webservice >
            < ABND          abendcode >
            < PROGRAM        program   >
            < DEFGROUP      group     >

            < LIFETIME      oper time >
            < CPUTIME       oper time >
            < IOREQSoper   count    >
            < XCT           oper count >
```

新規構文パラメータ

- DEFGROUP group - このパラメータを使用して、表示する定義グループを指定します。
- FILTER - データをフィルタするコマンド構文パラメータを入力するためのフィルタ画面を表示します。

ログストリームから読み取りおよび書き込みを行う CA SYSVIEW ログストリーム技術により、大幅なパフォーマンス向上が提供されるようになりました。

この拡張機能には以下の利点があります。

- ログストリームから読み取りおよび書き込みするための CPU 使用を縮小しました。
- ログストリームから大量のレコードを読み取るために必要な経過時間が短縮されました。

LINES パラメータのデフォルト値および最大値が調節されました。

パラメータ

■ LINES

新しいデフォルト値 : 25,000

新しい最大値 : 1,000,000

古いデフォルト値 : 5,000

古い最大値 : 100,000

この LINES 値はユーザ プロファイルに格納されます。希望のプライマリ コマンドから以下のコマンドを発行することにより、保存されているデフォルト値を変更できます。

OPTIONS LINE *nnnnn*

新規データフィールド

- DefGroup - エントリのインストール元の定義グループの名前。

概要サマリの新しいデータフィールド

- Program - 最初のプログラム名。
- Dispatch Time - トランザクションが送信された時間。
- Suspend Time - トランザクションが一時停止された時間。
- Delay Time - 最初の発送前にトランザクションが遅延された時間。

概要サマリ セクション

SMF ID : CA31 Start Date/Time : 04Dec2012 07:45:20.594

Applid : A31ICB18 End Date/Time : 04Dec2012 07:45:20.595

Jobname : SYSVC640 Life Time : 0.001334

CICS Release : TS 3.1 (6.4) CPU Time : 0.000480

Transaction ID : CLS2 Dispatch Time : 0.000640

Task Number : 104 Suspend Time : 0.000688

Program : DFHLUP Delay Time : 0.000016

Tran Class : Userid : CICSUSER

Priority : 254 Terminal : -AAB

Abend Code : LU-Name : A31ICCS1

Umbrella Name : Client Type : APPC Session

Umbrella Type :

新規データフィールド

- DefGroup - エントリのインストール元の定義グループの名前。

CTRANSUM

CICS トランザクション間隔

ログストリームから読み取りおよび書き込みを行う CA SYSVIEW ログストリーム技術により、大幅なパフォーマンス向上が提供されるようになりました。

この拡張機能には以下の利点があります。

- ログストリームから読み取りおよび書き込みするための CPU 使用を縮小しました。
- ログストリームから大量のレコードを読み取るために必要な経過時間が短縮されました。

LINES パラメータのデフォルト値および最大値が調節されました。

パラメータ

- LINES

新しいデフォルト値 : 25,000

新しい最大値 : 1,000,000

古いデフォルト値 : 5,000

古い最大値 : 100,000

この LINES 値はユーザプロファイルに格納されます。希望のプライマリコマンドから以下のコマンドを発行することにより、保存されているデフォルト値を変更できます。

OPTIONS LINE nnnn

CTSQUEUE

CICS 一時ストレージキューを表示します。

新規行コマンド フィールド

- DUMP - TSQUEUE フィールドで指定された仮想ストレージを表示する DUMP コマンドを呼び出します。

CVARS

利用可能な CICS モニタ変数を表示します。

新規データ フィールド:

- Schedule - データコレクションを担当する関連イベントスケジュール機能の名前。ブランクの場合、イベントスケジューラ機能によるメトリックの収集は行われません。

追加されたシステム データコレクションしきい値メトリック

以下のシステムしきい値メトリックが追加され、データコレクションが拡張されました。

TCLSACT

タスク クラス (TCLASS) アクティブ トランザクション。

リソース : tclass

TCLSACT%

最大トランザクション数のタスク クラス (TCLASS) パーセント。

リソース : tclass

TCLSQUEU

TCLASS キューイング トランザクション

リソース : tclass

TDATQCNT

一時データ キューイング数

リソース : trandata

TDATQUE%

トリガ レベルの一時データ キュー パーセント。

リソース : trandata

TEMPSTG%

一時ストレージ - 使用中のメイン一時ストレージ (TSMain) のパーセント。

リソース : なし

デフォルトしきい値例外定義が parmlib メンバ CICSTHRS に追加されました。

トランザクション クラス

```
DEFINE TCLSQUEU RSCE1 *  LIMIT 1
```

一時データ キュー

```
*DEFINE TDATQCNT RSCE1 *  LIMIT 0
DEFINE TDATQUE% RSCE1 *  LIMIT 101  WARNING 100
```

追加された状態データコレクションしきい値メトリック

以下の状態データコレクションメトリックが追加されました。

デフォルトの状態例外定義が `parmlib` メンバ `CICSTHRS` に追加されました。

- トランザクションクラス
- 一時データ キュー

設定オプション - Parmlib メンバ CICSOPTS

構成設定オプションメンバ CICSOPTS が拡張され、以下のオプションの追加が行われました。

GRANDE-STORAGE-AUTOSIZE-MEMLIMIT

このオプションは、必要に応じ CICS アドレス空間に対する MEMLIMIT 値を動的に調節します。

CA SYSVIEW for CICS Data Collector を使用した CICS 領域のモニタで使用されるストレージのほとんどは、64 ビットストレージにあります。CA SYSVIEW は、使用するために 64 ビットストレージのブロックを割り当てて、それらのブロックを内部で管理します。

EXEC ステートメントの MEMLIMIT= パラメータは、アドレス空間に使用可能なストレージの量を制御します。

CA SYSVIEW は、MEMLIMIT= パラメータが指定されており、16X 未満である場合、ストレージの量が CICS または既存のアプリケーションに対して使用されると仮定します。

したがって、CA SYSVIEW が 64 ビットストレージを割り当てる場合、MEMLIMIT 値は動的に調節されます。この調整により、既存のアプリケーションによって影響をうけたりストレージが予期せず使用されるのが回避されます。

デフォルト : Yes

Change : このオプションは CICSOPTS parmlib メンバを使用した初期化中にのみ設定できます。

有効な値は以下のとおりです。

- No - MEMLIMIT 値を調節または自動サイズ調整しないでください。
No が指定される場合、現在指定されている MEMLIMIT 値を 1 GB だけ増やすことが推奨されます。
- Yes - 必要に応じ MEMLIMIT サイズを調節します。

関連オプション : GRANDE-STORAGE-SIZE-LIMIT

GRANDE-STORAGE-SIZE-LIMIT

CA SYSVIEW for CICS Data Collector を使用した CICS 領域のモニタで使用されるストレージのほとんどは、64 ビットストレージにあります。CA SYSVIEW は、使用するために 64 ビットストレージのブロックを割り当てて、それらのブロックを内部で管理します。

CA SYSVIEW が CICS アドレス空間内に割り当てる 64 ビットストレージの量は、通常 32 MB 以下です。

このオプションは、SYSVIEW が CICS アドレス空間内で割り当てることができる、64 ビットストレージの最大数を制御します。

有効な値は以下の通りです。

- 最小 - 1 GB

デフォルト : 1 GB

Change : このオプションは CICSOPTS parmlib メンバを通じた初期化中にのみ設定できます。

関連オプション :

- GRANDE-STORAGE-AUTOSIZE-MEMLIMIT

LIFETIME-EXCLUDE

トランザクションが統計平均から除外されることなく持つことができる最大のライフタイムを指定します。指定された値より大きなライフタイム値を持つトランザクションは、データが歪曲しないように統計平均から除外されます。

CA SYSVIEW は、除外されたトランザクションの数をモニタし、CPU 時間やライフタイムなどの値の平均を迂回します。

この平均は、しきい値処理からのトランザクションを除外しません。

有効な値は以下の通りです。

- 00:00:00 - 値をゼロに設定すると、除外プロセスが迂回されます。

デフォルト : 00:00:00

Change : このオプションは CICSOPTS parmlib メンバを通じた初期化中にのみ設定できます。

注: Release 13.9 以前のデフォルトは 00:01:00 でした。

PERFORMANCE-DATA-SEGLIMIT-DB2

CICS データ コレクタは、トランザクションによって行われた DB2 リクエストに関する詳細情報をモニタし収集できます。

以下のセグメントキーの一意の組み合わせにより DB2 リクエストを収集できます。

- プログラム
- タイプ
- ステートメント

DB2 リクエストを行う長時間実行トランザクションは、多くの一意のセグメントキーを作成できます。キーが多いとパフォーマンスに悪い影響を及ぼす可能性があります。この理由から、一意のセグメントキーの数を制御できます。

セグメント制限に到達している場合、データは失われません。別の一般的なセグメントが作成されます。

以下の関連オプションが必要です。

- PERFORMANCE-COLLECTION: Yes
- PERFORMANCE-DATA-EXIT-RM: Yes
- PERFORMANCE-DATA-EXIT-RM-DB2: Yes
- PERFORMANCE-GLOBAL-EXIT-RM: Yes

デフォルト : 100

Change : このオプションは CCONFIG または CICSSET コマンドによって初期化後に変更できます。

有効な値は以下のとおりです。

- 最小 : 1
- 最大 : 1000

リリース 13.9 以前 :

- デフォルトは 25 でした
- 最大は 100 に制限されていました

関連オプション :

- PERFORMANCE-DATA-DB2-BY-PROGRAM
- PERFORMANCE-DATA-DB2-BY-STMT
- PERFORMANCE-DATA-DB2-BY-TYPE

- PERFORMANCE-DATA-SEGLIMIT-DB2
- PERFORMANCE-LOG-DB2

CICS リソース定義エントリ

インストール処理中に、必要な定義を CSD ファイルに追加するために、CICS ユーティリティ DFHCSDUP が使用されます。トランザクションクラス定義がリリース r13.7 で追加され、以下のトランザクション ID を一度に 1 つずつ実行できるようになりました。

- GSVS - CA SYSVIEW for CICS を起動します。
- GSVT - CA SYSVIEW for CICS を終了します。
- GSVI - CA SYSVIEW for CICS を実行します。 GSVS が GSVI トランザクションを開始します。

以下のサンプルライブラリ メンバを、DFHCSDUP ユーティリティの入力として使用できます。

- CICSCSD - このメンバは既存グループ CA SYSVIEW を削除し、すべての定義を CSD ファイルに追加します。

トランザクションクラス :

トランザクションクラス定義がリリース r13.7 で新たに追加されました。

```
DEFINE TRANCLASS(GSVCGSVS)
        MAXACTIVE(01)
        PURGETHRESH(01)
        GROUP(SYSVIEW)

DEFINE TRANCLASS(GSVCGSVI)
        MAXACTIVE(01)
        PURGETHRESH(01)
        GROUP(SYSVIEW)
```

トランザクション :

TRANCLASS(class) 属性が、以前からの既存のトランザクション定義に追加されています。

```
DEFINE TRANSACTION(GSVI)
        PROGRAM(GSVCGSVI)
        TASKDATAKEY(CICS)
        TASKDATALOC(BELOW)
        SHUTDOWN(ENABLED)
        RUNAWAY(0)
        PRIORITY(255)
        ISOLATE(NO)
        TRANCLASS(GSVCGSVI)
        GROUP(SYSVIEW)

DEFINE TRANSACTION(GSVS)
```

```
PROGRAM(GSVCGSVS)
TASKDATAKEY(CICS)
TASKDATALOC(BELOW)
SHUTDOWN(ENABLED)
RUNAWAY(0)
PRIORITY(255)
ISOLATE(NO)
TRANCLASS(GSVCGSVS)
GROUP(SYSVIEW)

DEFINE TRANSACTION(GSVT)
PROGRAM(GSVCGSVT)
TASKDATAKEY(CICS)
TASKDATALOC(BELOW)
SHUTDOWN(ENABLED)
RUNAWAY(0)
PRIORITY(255)
ISOLATE(NO)
TRANCLASS(GSVCGSVS)
GROUP(SYSVIEW)
```

CICS モニタ EXIT インターフェース (MEI)

CA SYSVIEW for CICS モニタ EXIT インターフェース (MEI) は、CICS プログラムまたはトランザクションに CA SYSVIEW for CICS データ コレクション プロセスの API を提供します。MEI に渡された情報は、呼び出し元トランザクションの詳細なトランザクション レコードに記録されます。

2 つのメソッドまたは API が使用可能です。両方のメソッドを 1 つのトランザクションやプログラム内で使用できます。

1. CICS コマンド レベル プログラムおよび標準的な CICS COMMAREA
2. アセンブラー マクロ インターフェース

モニタ EXIT インターフェースの既存ユーザが実行する必要のあるアクションは、現在使用されるインターフェースによって異なります。

- GSVCMEI マクロ インターフェース - GSVCMEI マクロ インターフェースは r13.7 で変更されました。

GSVCMEI マクロを使用する場合は、GSVCMEI マクロを使用して、それらのプログラムを再アセンブルしてください。コードの変更は必要ありません。また、必要に応じて、CICS コマンド レベル インターフェースを使用するようにこれらのプログラムを変換することもできます。既存のモジュールを変換しなくとも問題は発生しませんが、モニタ EXIT インターフェース データは収集されません。

詳細については、ヘルプ トピック 「CICS Monitor Exit Interface (MEI)」を参照してください。

CA Chorus Infrastructure Management for Networks and Systems

CA SYSVIEW リリース 13.7 で CA Chorus 統合が導入されました。グラフとして示されるデータは、時系列機能によって収集されます。この情報を提供するために、新しいデータコレクションイベントが CA SYSVIEW に組み込まれています。コレクションを制御する新しいイベント機能は、スケジューラに定義されます。

新規スケジューライベント関数は以下になります。

- TSF-SYSTEM - 時系列機能 - システムデータ
- TSF-TRANS - 時系列機能 - トランザクション

イベント定義は CICSSCHD parmlib メンバで定義されています。データコレクションおよび TSF イベントは、CICSSCHD メンバに動的に含まれる SCHDCICS parmlib メンバで定義されています。

parmlib メンバは、イベントの初期リストの作成や、イベントスケジューラの COLD スタート中のみに使用されます。イベントスケジューラーが WARM スタート (推奨のスタート方法) される場合、イベントのリストは永続データストアで保守されます。

オンライン表示を使用して、データコレクションイベントに継続的に変更を加えることができます。このイベントスケジューラは WARM または COLD の開始手順を使用できました。スタートのタイプにかかわらず、新しいイベントが作成されることを確認してください。データコレクションを実行するには、先にスケジューラでイベントが作成される必要があります。

イベントスケジューラが WARM スタートされる場合、イベントのリストは永続データストアから取得されます。この場合、parmlib メンバは読み取られません。データコレクションイベントが作成される必要があるのは、それらのイベントが保存済みのイベント定義リストに存在していたためです。各データコレクションタスクの初期化プロセス中に、タスクによって動的にデータコレクションイベントが作成されます。タスクでは、既存の定義の置換やオーバーレイを行わない方法を使用して、データコレクションイベントの作成や追加を行います。

したがって、以下の場合には、内部プロセスによってユーザ定義は置換されません。

- COLD スタートを使用して CA SYSVIEW を起動する場合

- SCHDCICS parmlib メンバにデフォルトのデータコレクションイベントが含まれる場合

ユーザが特定のデータコレクションイベントの実行を望まない場合は、エントリは削除せずに、イベント定義を無効とマーキングします。

CA Chorus による CICS データと時系列機能の統合は、以下の CICS 設定オプションによって実現されます。

設定オプション - parmlib メンバ - CICSOPTS

TSF-ENABLE

時系列機能のデータコレクションを有効にするように指定します。

仮想ストレージ制約解放

モジュールおよび永続ストレージはすべて、31 ビットまたは 64 ビットのストレージに割り当たられるようになりました。

CA SYSVIEW for CICS Data Collector を使用した CICS 領域のモニタで使用されるストレージのほとんどは、64 ビットストレージにあります。

システム環境設定オプション

システム環境設定オプション メンバは、CA SYSVIEW の初期化中に設定オプションを設定するために使用されます。システム環境設定オプション メンバは、システム parmlib データ セットの連結内にあることが必要です。CA SYSVIEW for CICS データ コレクタがデフォルトの GSVX 以外の CA SYSVIEW サブシステム ID に接続している場合は、そのサブシステム ID を指定してください。

デフォルトのサブシステム ID の指定やオーバーライドは、以下の方法で行えます。

- CICS データ コレクタを起動する - CICS データ コレクタを起動するためのトランザクション ID は GSVS です。

GSVS <initialization parameters>

例

GSVS GSVI=tran,USERID=userid,START=start,SSID=ssid

- CICS データ コレクタを再起動する - CICS データ コレクタを停止し再起動するためのトランザクション ID は、GSVT です。

GSVT RESTART <initialization parameters>

例

GSVT RESTART GSVI=tran,USERID=userid,START=start,SSID=ssid

- SIT INITPARM の一部として各種のパラメータを指定する方法もあります。

例

```
INITPARM=(DFHMQPRM='SN=CSQ2,IQ=CICS.SYSC660.INITQ',
DFHDBC0N='00,SVPB',GSVCGSVS='GSVI=*,USERID=*,START=*,SSID=*' ),
```

イベントスケジューラ

CA SYSVIEW Option for CICS で以下のデータ コレクションイベント機能の名前が変更されました。古い機能名は自動的に新しい機能名に変換されます。

新しい機能	古い機能
SYSTEM-CONNECT	STATE-CONNECT
SYSTEM-FACILITY	STATE-FACILITY

オプション

新しい機能	古い機能
SYSTEM-FILES	STATE-FILES
SYSTEM-PROGRAMS	STATE-PROGRAMS
SYSTEM-SOCKETS	STATE-SOCKETS
SYSTEM-CONDITION	STATE-SYSTEM
SYSTEM-TDATA	STATE-TDATA
SYSTEM-TERMINALS	STATE-TERMINALS
SYSTEM-TRANS	STATE-TRANS
SYSTEM-IPCONN	STATE-IPCONN
SYSTEM-PIPELINES	STATE-PIPELINES

CA DATACOM Option

CA SYSVIEW CA DATACOM Option が拡張されました。

拡張されたコマンド

既存のコマンドに、以下の拡張が行われました。

DCDBASES

Datacom ディレクトリ データベース

削除されたデータフィールド

以下のフィールドは削除されており、Datacom r11 以降は有効ではなくなりました。

- Extend
- Index
- Tracks

DCLIST

モニタされた CA DATACOM ジョブを表示します。

新規データフィールド:

- ディスパッチ - アドレス空間が実行可能かどうか。

以下のいずれかの値 :

- RUNNING - アドレス空間には、プロセッサで実行する 1 つ以上作業単位 (タスクまたは SRB) があります。
- READY*nnn* - アドレス空間には、実行可能であるが、プロセッサ上で実行を待機する 1 つ以上の作業単位 (タスクまたは SRB) があります。 *nnn* 部分は、最大 255 までのディスパッチ優先順位です。
- 空白 - アドレス空間は実行可能ではありません。

DB2 オプション

CA SYSVIEW DB2 DATACOM Option は機能強化されました。

拡張されたコマンド

既存のコマンドに、以下の拡張が行われました。

DB2LIST

DB2 サブシステム リスト

新規データフィールド:

- ディスパッチ - アドレス空間が実行可能かどうか。
以下のいずれかの値：
 - RUNNING - アドレス空間には、プロセッサで実行する 1 つ以上作業単位 (タスクまたは SRB) があります。
 - READYnnn - アドレス空間には、実行可能であるが、プロセッサ上で実行を待機する 1 つ以上の作業単位 (タスクまたは SRB) があります。 nnn 部分は、最大 255 までのディスパッチ優先順位です。
 - 空白 - アドレス空間は実行可能ではありません。
- DSGroup - この DB2 がメンバとして含まれるデータ共有グループ名。 DB2 が非アクティブな場合や DB2 がデータ共有グループのメンバでない場合、グループはブランクです。
- Atch - この DB2 がメンバとして含まれるデータ共有グループアタッチ名。 DB2 がデータ共有グループのメンバでない場合、アタッチ名はブランクです。

新規行コマンド:

- IRImlist - DB2 サブシステムの IRLMLIST コマンドを呼び出すために使用します。
- LOcks - DB2 サブシステムの IRLMLOCK コマンドを呼び出すために使用します。

Event Capture Option

CA SYSVIEW Event Capture Option が拡張されました。

拡張されたコマンド

既存のコマンドに、以下の拡張が行われました。

CAPCLOSE

キャプチャデータセットをクローズするために使用されます。

新規構文パラメータ:

- Msg、NOMsg - "Capture closed" 情報メッセージが表示されるかどうかを制御します。デフォルトでは、MSG に設定されています。警告およびエラーメッセージが常に表示されます。

CAPIMMED

即時キャプチャ

新規構文パラメータ:

- Msg、NOMsg - "Capture complete" 情報メッセージが表示されるかどうかを制御します。デフォルトでは、MSG に設定されています。警告およびエラーメッセージが常に表示されます。

CAPOPEN

キャプチャオープン

新規構文パラメータ:

- Msg、NOMsg - "Capture opened" 情報メッセージが表示されるかどうかを制御します。デフォルトでは、MSG に設定されています。警告およびエラーメッセージが常に表示されます。

CAPTURE

キャプチャイベント

構文

```
CAPTURE      OPEN <opts>
              IMMEDIATE <opts>
              CLOSE <opts>
```

新規構文パラメータ:

- Msg、NOMsg - コマンド Capture Opened、Capture Complete および Capture Closed によって生成されたメッセージを表示するかどうかを制御します。デフォルトでは、MSG に設定されています。警告またはエラーメッセージが常に表示されます。Message と NOMessage は Msg および NOMsg キーワードのエイリアスです。

SMFLOG

SMF ログを表示します。

ログストリームから読み取りおよび書き込みを行う CA SYSVIEW ログストリーム技術により、大幅なパフォーマンス向上が提供されるようになりました。

この拡張機能には以下の利点があります。

- ログストリームから読み取りおよび書き込みするための CPU 使用を縮小しました。
- ログストリームから大量のレコードを読み取るために必要な経過時間が短縮されました。

_LINES パラメータのデフォルト値および最大値が調節されました。

パラメータ

- LINES

新しいデフォルト値 : 25,000

新しい最大値 : 1,000,000

古いデフォルト値 : 5,000

古い最大値 : 100,000

この_LINES 値はユーザプロファイルに格納されます。希望のプライマリコマンドから以下のコマンドを発行することにより、保存されているデフォルト値を変更できます。

`OPTIONS LINE nnnnn`

Option for IMS

CA SYSVIEW Option for IMS が拡張されました。

拡張されたコマンド

既存のコマンドに、以下の拡張が行われました。

IMSAALERT

IMS 例外アラートを表示します。

構文 :

```
IMSAALERT      < WARNING      | NORMAL    >
                < THRESH      | ALL       >
                < DETAIL      | SUMMARY   >
                < STATS       | NOSTATS  >
                < DESC        | NODESC   >
                < ACK         | NOACK   >
                < NOXSDATA   | XSDATA   >
                < NOXSYSTEM  | XSYSTEM  >

                < NAME        name      >

                < RESOURCE   resource  >
                < RSCE       resource  >
                < ARGUMENT   resource  >

                < ID          id        >
                < GROUP      group     >
                < SUBGROUP   subgroup  >
                < SUMMGRP    summgrp  >
```

新規構文パラメータ

- SUMMGRP summgrp - 表示を SummGrp フィールドで対応する値を持つエントリのみに制限します。

新規データフィールド

- SummGrp - サマリ グループ ID。

IMSDAILY

IMS の日単位使用状況

システム内及びシステム間のデータ用にこのコマンドが有効になりました。

構文

```
IMSDAILY      < REGION      | SYSTEM    >
                < XSYSTEM   | NOXSYSTEM >
                < XSDATA    | NOXSDATA  >
                < GROUP     name      >
```

新規構文キーワード

- **REGion** - 現在のターゲットアドレス空間のみを表示します。このキーワードにより、システム間データ収集の設定はこの実行に対し強制的にオフになります。**XSDATA** の現在のプロファイル設定は保持されます。
- **SYStem** - 現在のシステムで現在モニタ中のすべての **IMS** アドレス空間を表示します。
- **XSYStem**、**XSData** - すべてのシステムのすべての **IMS** アドレス空間を表示します。このキーワードにより、システム間データ収集の設定はこの実行に対し強制的にオンになります。**XSDATA** の現在のプロファイル設定は保持されます。
- **NOXSYStem**、**NOXSData** - このキーワードにより、システム間データ収集の設定はこの実行に対し強制的にオフになります。**XSDATA** の現在のプロファイル設定は保持されます。
- **GROUP** - 表示する **IMS** サブシステムのリストが含まれるグループ名を指定する引数が後に続くことを示します。タイプが **IMSID** である利用可能なグループのリストは、**GROUPS** コマンドで見つけることができます。グループ名には「*」を指定して、グループ処理が必要ないことを示すことができます。

IMSLIST

IMS 制御領域

システム間のデータ用にこのコマンドが有効になりました。

構文

```
IMSDAILY    < XSYStem | NOXSYStem >
              < XSData  | NOXSDaTa >
              < GROUP  name >
              < MONitored >
```

新規構文キーワード

- **XSYStem**、**XSData** - すべてのシステムのすべての IMS アドレス空間を表示します。このキーワードにより、システム間データ収集の設定はこの実行に対し強制的にオンになります。**XSDATA** の現在のプロファイル設定は保持されます。
- **NOXSYStem**、**NOXSDaTa** - このキーワードにより、システム間データ収集の設定はこの実行に対し強制的にオフになります。**XSDATA** の現在のプロファイル設定は保持されます。
- **GROUP** - 表示する IMS サブシステムのリストが含まれるグループ名を指定する引数が後に続くことを示します。タイプが **IMSID** である利用可能なグループのリストは、**GROUPS** コマンドで見つけることができます。グループ名には「*」を指定して、グループ処理が必要ないことを示すことができます。
- **MONitored** - モニタされた IMS 制御領域のみが表示されます。モニタされた IMS ID は、**IMSMON** 表示で見つけることができます。

新規データフィールド:

- ディスパッチ - アドレス空間が実行可能かどうか。

以下のいずれかの値 :

- **RUNNING** - アドレス空間には、プロセッサで実行する 1 つ以上作業単位 (タスクまたは SRB) があります。
- **READYnnn** - アドレス空間には、実行可能であるが、プロセッサ上で実行を待機する 1 つ以上の作業単位 (タスクまたは SRB) があります。 *nnn* 部分は、最大 255 までのディスパッチ優先順位です。
- **空白** - アドレス空間は実行可能ではありません。

IMSLOCKS

IMS IRLM ロックを表示します。

システム内及びシステム間のデータ用にこのコマンドが有効になりました。

構文

```
IMSDAILY  < REGion    | SYStem    >
            < XSYStem | NOXSYStem >
            < XSData   | NOXSData  >
            < GROUP   name >
```

新規構文キーワード

- **REGion** - 現在のターゲットアドレス空間のみを表示します。このキーワードにより、システム間データ収集の設定はこの実行に対し強制的にオフになります。XSDATA の現在のプロファイル設定は保持されます。
- **SYStem** - 現在のシステムで現在モニタ中のすべての IMS アドレス空間を表示します。
- **XSYStem**、**XSData** - すべてのシステムのすべての IMS アドレス空間を表示します。このキーワードにより、システム間データ収集の設定はこの実行に対し強制的にオンになります。XSDATA の現在のプロファイル設定は保持されます。
- **NOXSYStem**、**NOXSData** - このキーワードにより、システム間データ収集の設定はこの実行に対し強制的にオフになります。XSDATA の現在のプロファイル設定は保持されます。
- **GROUP** - 表示する IMS サブシステムのリストが含まれるグループ名を指定する引数が後に続くことを示します。タイプが IMSID である利用可能なグループのリストは、**GROUPS** コマンドで見つけることができます。グループ名には「*」を指定して、グループ処理が必要ないことを示すことができます。

IMSLOGRS

IMS ロガーを表示します。

システム間のデータ用にこのコマンドが有効になりました。

構文

```
IMSLOGRS  < XSYStem | NOXSYStem >
             < XSData    | NOXSData  >
             < GROUP   name >
```

新規構文キーワード

- XSYStem、XSData - すべてのシステムのすべての IMS アドレス空間を表示します。このキーワードにより、システム間データ収集の設定はこの実行に対し強制的にオンになります。XSData の現在のプロファイル設定は保持されます。
- NOXSYStem、NOXSData - このキーワードにより、システム間データ収集の設定はこの実行に対し強制的にオフになります。XSData の現在のプロファイル設定は保持されます。
- GROUP - 表示する IMS サブシステムのリストが含まれるグループ名を指定する引数が後に続くことを示します。タイプが IMSID である利用可能なグループのリストは、GROUPS コマンドで見つけることができます。グループ名には「*」を指定して、グループ処理が必要ないことを示すことができます。

新規行コマンド

- DDUMP - 選択された IMSLOGR 用の IMSLOGR データスペースをダンプします。
- SLGR - 選択された制御領域用の IMSLOGR を開始します。
- PLGR - 選択された制御領域用の IMSLOGR を停止します。

IMSMON

IMS モニタ定義を表示します。

コマンドが拡張され、ライブラリ連結をサポートするようになりました。

変更された サブコマンド構文パラメータ:

データ セットの特定のメンバへのエクスポート定義。

構文 :

```
EXPORT member  
       dsname(member)
```

パラメータおよび説明

- *member* - 保存されるメンバの名前。
- *dsname* - 指定されたメンバが保存されるデータ セット名。
データ セット名は、完全修飾データ セット名として指定するか、以下の特別なキーワードのいずれかを使用して指定できます。

キーワードおよび説明

- **USER** - ライブラリタイプ PARMLIB 用のユーザプロファイルで定義したオプションのデータ セット名を使用します。
例 : **USER(*member*)**
- **SITE** - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるオプションのサイト PARMLIB 日付セットを使用します。
例 : **SITE(*member*)**
- **SYSTEM** - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるシステム PARMLIB データ セットを使用します。
例 : **SYSTEM(*member*)**
- **SITESYSTEM|*** - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるオプションのサイト PARMLIB データ セットを使用します。サイトデータ セットが定義されていない場合は、システム PARMLIB データ セット名を使用します。

例

```
SITESYSTEM(member)  
          *(member)
```

IMSOMAT**IMS OM 監査証跡**

ログストリームから読み取りおよび書き込みを行う CA SYSVIEW ログストリーム技術により、大幅なパフォーマンス向上が提供されるようになりました。

この拡張機能には以下の利点があります。

- ログストリームから読み取りおよび書き込みするための CPU 使用を縮小しました。
- ログストリームから大量のレコードを読み取るために必要な経過時間が短縮されました。

_LINES パラメータのデフォルト値および最大値が調節されました。

パラメータ

- LINES

新しいデフォルト値 : 25,000

新しい最大値 : 1,000,000

古いデフォルト値 : 5,000

古い最大値 : 100,000

この LINES 値はユーザプロファイルに格納されます。希望のプライマリコマンドから以下のコマンドを発行することにより、保存されているデフォルト値を変更できます。

OPTIONS LINE nnnnn

IMSRACT

IMS 依存の領域詳細を表示します。

新規データフィールド

- SSA - SSA 作業領域の最初の 48 バイトを表示します。
- I/O 領域 - 現在の I/O 領域の最初の 80 バイトを表示します。

IMSREGNS

IMS 依存の領域を表示します。

システム内及びシステム間のデータ用にこのコマンドが有効になりました。

構文

```
IMSDAILY  < REGion    | SYStem    >
            < XSYStem | NOXSYStem >
            < XSData   | NOXSData  >
            < GROUP   name >
            < MONitored >
```

新規構文キーワード

- **REGion** - 現在のターゲットアドレス空間のみを表示します。このキーワードにより、システム間データ収集の設定はこの実行に対し強制的にオフになります。**XSDATA** の現在のプロファイル設定は保持されます。
- **SYStem** - 現在のシステムで現在モニタ中のすべての **IMS** アドレス空間を表示します。
- **XSYStem**、**XSData** - すべてのシステムのすべての **IMS** アドレス空間を表示します。このキーワードにより、システム間データ収集の設定はこの実行に対し強制的にオンになります。**XSDATA** の現在のプロファイル設定は保持されます。
- **NOXSYStem**、**NOXSData** - このキーワードにより、システム間データ収集の設定はこの実行に対し強制的にオフになります。**XSDATA** の現在のプロファイル設定は保持されます。
- **GROUP** - 表示する **IMS** サブシステムのリストが含まれるグループ名を指定する引数が後に続くことを示します。タイプが **IMSID** である利用可能なグループのリストは、**GROUPS** コマンドで見つけることができます。グループ名には「*」を指定して、グループ処理が必要ないことを示すことができます。
- **MONitored** - モニタされた **IMS** 制御領域のみが表示されます。モニタされた **IMS** ID は、**IMSMON** 表示で見つけることができます。

新規データフィールド:

- ディスパッチ - アドレス空間が実行可能かどうか。

以下のいずれかの値 :

- **RUNNING** - アドレス空間には、プロセッサで実行する 1 つ以上作業単位 (タスクまたは SRB) があります。

- **READYnnn** - アドレス空間には、実行可能であるが、プロセッサ上での実行を待機する 1 つ以上の作業単位(タスクまたは SRB)があります。 *nnn* 部分は、最大 255 までのディスパッチ優先順位です。
- **空白** - アドレス空間は実行可能ではありません。
- **ProcTime** - トランザクション処理時間を指定します。この値は、現在の時間からトランザクション スケジュール時間を引いた値です。
- **InQTime** - トランザクション入力キュー時間を指定します。この値は、スケジュール時間からトランザクション エンキュー時間を引いた値です。

注: FASTPATH 応答時間コンポーネントは、IMS x'59' ログ レコード内のフィールドから抽出されます。 IBM は、ミリ秒で時間を格納し、1 ミリ秒未満の値は BLANK としてディスプレイに表示されます。

- **SQ6Time** - 現在のトランザクションが到達するためにその領域がスケジューラ キューで待機した時間の総計を指定します。このフィールドは WFI および PWFI のトランザクションに適用されます。

IMRSRSLOG

IMS 領域サマリ ログを表示します。

ログストリームから読み取りおよび書き込みを行う CA SYSVIEW ログストリーム技術により、大幅なパフォーマンス向上が提供されるようになりました。

この拡張機能には以下の利点があります。

- ログストリームから読み取りおよび書き込みするための CPU 使用を縮小しました。
- ログストリームから大量のレコードを読み取るために必要な経過時間が短縮されました。

_LINES パラメータのデフォルト値および最大値が調節されました。

パラメータ

- LINES

新しいデフォルト値 : 25,000

新しい最大値 : 1,000,000

古いデフォルト値 : 5,000

古い最大値 : 100,000

この LINES 値はユーザプロファイルに格納されます。希望のプライマリコマンドから以下のコマンドを発行することにより、保存されているデフォルト値を変更できます。

OPTIONS LINE nnnn

IMSSTATE

IMS 状態定義を表示します。

コマンドが拡張され、ライブラリ連結をサポートするようになりました。

変更された サブコマンド構文パラメータ:

データ セットの特定のメンバへのエクスポート定義。

構文 :

```
EXPORT member
       dsname(member)
```

パラメータおよび説明

- *member* - 保存されるメンバの名前。
- *dsname* - 指定されたメンバが保存されるデータ セット名。
データ セット名は、完全修飾データ セット名として指定するか、以下の特別なキーワードのいずれかを使用して指定できます。

キーワードおよび説明

- **USER** - ライブラリタイプ PARMLIB 用のユーザプロファイルで定義したオプションのデータ セット名を使用します。
例 : **USER(*member*)**
- **SITE** - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるオプションのサイト PARMLIB 日付セットを使用します。
例 : **SITE(*member*)**
- **SYSTEM** - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるシステム PARMLIB データ セットを使用します。
例 : **SYSTEM(*member*)**
- **SITESYSTEM|*** - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるオプションのサイト PARMLIB データ セットを使用します。サイトデータ セットが定義されていない場合は、システム PARMLIB データ セット名を使用します。

例

```
SITESYSTEM(member)
          *(member)
```

IMSTHRSH

IMS しきい値定義を表示します。

コマンドが拡張され、ライブラリ連結をサポートするようになりました。

変更された サブコマンド構文パラメータ:

データ セットの特定のメンバへのエクスポート定義。

構文 :

```
EXPORT member  
       dsname(member)
```

パラメータおよび説明

- *member* - 保存されるメンバの名前。
- *dsname* - 指定されたメンバが保存されるデータ セット名。
データ セット名は、完全修飾データ セット名として指定するか、以下の特別なキーワードのいずれかを使用して指定できます。

キーワードおよび説明

- **USER** - ライブラリタイプ PARMLIB 用のユーザプロファイルで定義したオプションのデータ セット名を使用します。
例 : **USER(*member*)**
- **SITE** - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるオプションのサイト PARMLIB 日付セットを使用します。
例 : **SITE(*member*)**
- **SYSTEM** - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるシステム PARMLIB データ セットを使用します。
例 : **SYSTEM(*member*)**
- **SITESYSTEM|*** - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるオプションのサイト PARMLIB データ セットを使用します。サイトデータ セットが定義されていない場合は、システム PARMLIB データ セット名を使用します。

例

```
SITESYSTEM(member)  
          *(member)
```

IMSTLOG

IMS トランザクションログを表示します。

ログストリームから読み取りおよび書き込みを行う CA SYSVIEW ログストリーム技術により、大幅なパフォーマンス向上が提供されるようになりました。

この拡張機能には以下の利点があります。

- ログストリームから読み取りおよび書き込みするための CPU 使用を縮小しました。
- ログストリームから大量のレコードを読み取るために必要な経過時間が短縮されました。

LINES パラメータのデフォルト値および最大値が調節されました。

パラメータ

- LINES

新しいデフォルト値 : 25,000

新しい最大値 : 1,000,000

古いデフォルト値 : 5,000

古い最大値 : 100,000

この LINES 値はユーザプロファイルに格納されます。希望のプライマリコマンドから以下のコマンドを発行することにより、保存されているデフォルト値を変更できます。

OPTIONS LINE *nnnnn*

新規データフィールド

- SQ6time - トランザクションが到達するためにその領域がスケジューラキューで費やした時間の総計。このフィールドは、WFI および PWFI のトランザクションにのみ適用されます。

セクションの新規データフィールド: ESS トレース

- オブジェクト名
- MQ コールタイプ

IMSWAITS

利用可能な IMS モニタ変数を表示します。

システム内及びシステム間のデータ用にこのコマンドが有効になりました。

構文

```
IMSDAILY  < REGion    | SYStem    >
             < XSYStem | NOXSYStem >
             < XSData    | NOXSData  >
             < GROUP    name >
```

新規構文キーワード

- **REGion** - 現在のターゲット アドレス空間のみを表示します。このキーワードにより、システム間データ収集の設定はこの実行に対し強制的にオフになります。**XSDATA** の現在のプロファイル設定は保持されます。
- **SYStem** - 現在のシステムで現在モニタ中のすべての **IMS** アドレス空間を表示します。
- **XSYStem**、**XSData** - すべてのシステムのすべての **IMS** アドレス空間を表示します。このキーワードにより、システム間データ収集の設定はこの実行に対し強制的にオンになります。**XSDATA** の現在のプロファイル設定は保持されます。
- **NOXSYStem**、**NOXSData** - このキーワードにより、システム間データ収集の設定はこの実行に対し強制的にオフになります。**XSDATA** の現在のプロファイル設定は保持されます。
- **GROUP** - 表示する **IMS** サブシステムのリストが含まれるグループ名を指定する引数が後に続くことを示します。タイプが **IMSID** である利用可能なグループのリストは、**GROUPS** コマンドで見つけることができます。グループ名には「*」を指定して、グループ処理が必要ないことを示すことができます。

設定オプション - Parmlib メンバ - IMSVARS

VARIABLE-SET オプションを使用して、収集するデータコレクションメトリックのセットを制御できます。この新しいアクションは、CA Chorus Infrastructure Management for Networks and Systems の一部として時系列機能に送信されるメトリックのセットを制御するために定義されています。TSF 適合として定義されるメトリックのみを有効化または無効化できます。適合性のリストは、IMSVARS コマンドで表示できます。

■ VARIABLE-SET

source:variable:actions

source

IMS

variable

データコレクションメトリック名。この名前は総称的に指定することができます。

- 可変長マスク文字 : =
- 固定長マスク文字 : *

actions

適用するアクション。

- ENAbled - コレクションが有効化されます。
- DISabled - コレクションが無効化されます。TSF も無効化されます。
- TSF - TSF コレクションが有効化されます。メトリックも有効化される必要があります。
- NOTSF - TSF コレクションが無効化されます。

TCP/IP オプション

CA SYSVIEW の TCP/IP オプションが拡張されました。

拡張されたコマンド

既存のコマンドに、以下の拡張が行われました。

TCPALERT

TCP例外アラートを表示します。

構文

```
TCPALERT      < WARNING      | NORMAL    >
                < THRESH      | ALL       >
                < DETAIL      | SUMMARY   >
                < STATS       | NOSTATS  >
                < DESC        | NODESC   >
                < ACK         | NOACK   >
                < NOXSDATA   | XSData   >
                < NOXSYSTEM  | XSYstem >

                < NAME        name      >

                < RESource    resource >
                < RSCE        resource >
                < ARGument   resource >

                < ID          id       >
                < GROUP       group    >
                < SUBGroup    subgroup >
                < SUMMGRP    summgrp >
```

新規構文パラメータ

- SUMMGRP summgrp - 表示を SummGrp フィールドで対応する値を持つエントリのみに制限します。

新規データフィールド

- SummGrp - サマリ グループ ID。

TCPMON

TCP/IP モニタ定義を表示します。

コマンドが拡張され、ライブラリ連結をサポートするようになりました。

変更された サブコマンド構文パラメータ:

データ セットの特定のメンバへのエクスポート定義。

構文 :

```
EXPORT member
       dsname(member)
```

パラメータおよび説明

- *member* - 保存されるメンバの名前。
- *dsname* - 指定されたメンバが保存されるデータ セット名。
データ セット名は、完全修飾データ セット名として指定するか、以下の特別なキーワードのいずれかを使用して指定できます。

キーワードおよび説明

- **USER** - ライブラリタイプ PARMLIB 用のユーザプロファイルで定義したオプションのデータ セット名を使用します。
例 : **USER(*member*)**
- **SITE** - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるオプションのサイト PARMLIB 日付セットを使用します。
例 : **SITE(*member*)**
- **SYSTEM** - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるシステム PARMLIB データ セットを使用します。
例 : **SYSTEM(*member*)**
- **SITESYSTEM|*** - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるオプションのサイト PARMLIB データ セットを使用します。サイトデータ セットが定義されていない場合は、システム PARMLIB データ セット名を使用します。

例

```
SITESYSTEM(member)
          *(member)
```

TCPSTATE

TCP/IP 状態定義を表示します。

コマンドが拡張され、ライブラリ連結をサポートするようになりました。

変更された サブコマンド構文パラメータ:

データ セットの特定のメンバへのエクスポート定義。

構文 :

```
EXPORT member  
       dsname(member)
```

パラメータおよび説明

- *member* - 保存されるメンバの名前。
- *dsname* - 指定されたメンバが保存されるデータ セット名。
データ セット名は、完全修飾データ セット名として指定するか、以下の特別なキーワードのいずれかを使用して指定できます。

キーワードおよび説明

- **USER** - ライブラリタイプ PARMLIB 用のユーザプロファイルで定義したオプションのデータ セット名を使用します。
例 : **USER(*member*)**
- **SITE** - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるオプションのサイト PARMLIB 日付セットを使用します。
例 : **SITE(*member*)**
- **SYSTEM** - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるシステム PARMLIB データ セットを使用します。
例 : **SYSTEM(*member*)**
- **SITESYSTEM|*** - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるオプションのサイト PARMLIB データ セットを使用します。サイトデータ セットが定義されていない場合は、システム PARMLIB データ セット名を使用します。

例

```
SITESYSTEM(member)  
          *(member)
```

TCPTHRS

TCP/IP しきい値定義を表示します。

コマンドが拡張され、ライブラリ連結をサポートするようになりました。

変更された サブコマンド構文パラメータ:

データ セットの特定のメンバへのエクスポート定義。

構文 :

```
EXPORT member
       dsname(member)
```

パラメータおよび説明

- *member* - 保存されるメンバの名前。
- *dsname* - 指定されたメンバが保存されるデータ セット名。
データ セット名は、完全修飾データ セット名として指定するか、以下の特別なキーワードのいずれかを使用して指定できます。

キーワードおよび説明

- **USER** - ライブラリタイプ PARMLIB 用のユーザプロファイルで定義したオプションのデータ セット名を使用します。
例 : **USER(*member*)**
- **SITE** - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるオプションのサイト PARMLIB 日付セットを使用します。
例 : **SITE(*member*)**
- **SYSTEM** - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるシステム PARMLIB データ セットを使用します。
例 : **SYSTEM(*member*)**
- **SITESYSTEM|*** - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるオプションのサイト PARMLIB データ セットを使用します。サイトデータ セットが定義されていない場合は、システム PARMLIB データ セット名を使用します。

例

```
SITESYSTEM(member)
          *(member)
```

Option for WebSphere MQ

CA SYSVIEW Option for WebSphere MQ が拡張されました。

追加されたコマンド(MQ)

Option for WebSphere MQ が機能強化され、以下の新規コマンドが追加されました。

MQSSET

アクションが MQ オブジェクトで実行されます。

拡張されたコマンド

既存のコマンドに、以下の拡張が行われました。

MQALERTS

MQ 例外アラートを表示します。

構文

```
MQALERTS      < WARNING      | NORMAl      >
                < THRESH      | ALL         >
                < DETAIL      | SUMMARY     >
                < STATS       | NOSTATS    >
                < DESC        | NODESC     >
                < ACK         | NOACK      >
                < NOXSData   | XSData     >
                < NOXSystem  | XSystem    >

                < NAME        name       >

                < REsource    resource   >
                < RSCE        resource   >
                < ARGument   resource   >

                < QMGR        qmgr       >
                < GROUP       group      >
                < SUBGroup   subgroup   >
                < SUMMGRP    summgrp   >
```

新規構文パラメータ

- SUMMGRP summgrp - 表示を SummGrp フィールドで対応する値を持つエントリのみに制限します。

新規データフィールド

- SummGrp - サマリ グループ ID。

MQMON

MQ モニタ定義を表示します。

コマンドが拡張され、ライブラリ連結をサポートするようになりました。

変更された サブコマンド構文パラメータ:

データ セットの特定のメンバへのエクスポート定義。

構文 :

```
EXPORT member
       dsname(member)
```

パラメータおよび説明

- *member* - 保存されるメンバの名前。
- *dsname* - 指定されたメンバが保存されるデータ セット名。
データ セット名は、完全修飾データ セット名として指定するか、以下の特別なキーワードのいずれかを使用して指定できます。

キーワードおよび説明

- **USER** - ライブラリタイプ PARMLIB 用のユーザプロファイルで定義したオプションのデータ セット名を使用します。
例 : **USER(*member*)**
- **SITE** - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるオプションのサイト PARMLIB 日付セットを使用します。
例 : **SITE(*member*)**
- **SYSTEM** - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるシステム PARMLIB データ セットを使用します。
例 : **SYSTEM(*member*)**
- **SITESYSTEM|*** - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるオプションのサイト PARMLIB データ セットを使用します。サイトデータ セットが定義されていない場合は、システム PARMLIB データ セット名を使用します。

例

```
SITESYSTEM(member)
           *(member)
```

MQSTATES

MQ 状態定義

コマンドが拡張され、ライブラリ連結をサポートするようになりました。

変更された サブコマンド構文パラメータ:

データ セットの特定のメンバへのエクスポート定義。

構文 :

```
EXPORT member  
       dsname(member)
```

パラメータおよび説明

- *member* - 保存されるメンバの名前。
- *dsname* - 指定されたメンバが保存されるデータ セット名。
データ セット名は、完全修飾データ セット名として指定するか、以下の特別なキーワードのいずれかを使用して指定できます。

キーワードおよび説明

- **USER** - ライブラリタイプ PARMLIB 用のユーザプロファイルで定義したオプションのデータ セット名を使用します。
例 : **USER(*member*)**
- **SITE** - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるオプションのサイト PARMLIB 日付セットを使用します。
例 : **SITE(*member*)**
- **SYSTEM** - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるシステム PARMLIB データ セットを使用します。
例 : **SYSTEM(*member*)**
- **SITESYSTEM|*** - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるオプションのサイト PARMLIB データ セットを使用します。サイトデータ セットが定義されていない場合は、システム PARMLIB データ セット名を使用します。

例

```
SITESYSTEM(member)  
          *(member)
```

MQRLOG

MQ リクエスト履歴ログを表示します。

コマンドが拡張され、ライブラリ連結をサポートするようになりました。

変更された サブコマンド構文パラメータ:

データ セットの特定のメンバへのエクスポート定義。

構文 :

```
EXPORT member
       dsname(member)
```

パラメータおよび説明

- *member* - 保存されるメンバの名前。
- *dsname* - 指定されたメンバが保存されるデータ セット名。
データ セット名は、完全修飾データ セット名として指定するか、以下の特別なキーワードのいずれかを使用して指定できます。

キーワードおよび説明

- **USER** - ライブラリタイプ PARMLIB 用のユーザプロファイルで定義したオプションのデータ セット名を使用します。
例 : **USER(*member*)**
- **SITE** - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるオプションのサイト PARMLIB 日付セットを使用します。
例 : **SITE(*member*)**
- **SYSTEM** - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるシステム PARMLIB データ セットを使用します。
例 : **SYSTEM(*member*)**
- **SITESYSTEM|*** - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるオプションのサイト PARMLIB データ セットを使用します。サイトデータ セットが定義されていない場合は、システム PARMLIB データ セット名を使用します。

例

```
SITESYSTEM(member)
           *(member)
```

MQTHRESH

MQ しきい値定義

コマンドが拡張され、ライブラリ連結をサポートするようになりました。

変更された サブコマンド構文パラメータ:

データ セットの特定のメンバへのエクスポート定義。

構文 :

```
EXPORT member  
       dsname(member)
```

パラメータおよび説明

- *member* - 保存されるメンバの名前。
- *dsname* - 指定されたメンバが保存されるデータ セット名。
データ セット名は、完全修飾データ セット名として指定するか、以下の特別なキーワードのいずれかを使用して指定できます。

キーワードおよび説明

- **USER** - ライブラリタイプ PARMLIB 用のユーザプロファイルで定義したオプションのデータ セット名を使用します。
例 : **USER(*member*)**
- **SITE** - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるオプションのサイト PARMLIB 日付セットを使用します。
例 : **SITE(*member*)**
- **SYSTEM** - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるシステム PARMLIB データ セットを使用します。
例 : **SYSTEM(*member*)**
- **SITESYSTEM|*** - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるオプションのサイト PARMLIB データ セットを使用します。サイトデータ セットが定義されていない場合は、システム PARMLIB データ セット名を使用します。

例

```
SITESYSTEM(member)  
          *(member)
```

設定オプション - Parmlib メンバ - MQSDATA

パラメータ ライブラリ メンバ MQSDATA が拡張され、新しい設定オプションが含まれるようになりました。

QMGR-ERROR-NOTIFY-INTERVAL

反復性のエラーメッセージがエンドユーザやジョブログに送信されないように抑制するインターバルを指定します。エラーメッセージは、引き続きインターバルリストログに書き込まれます。

デフォルト : 00:00:00

設定オプション - Parmlib メンバ - MQSVARS

VARIABLE-SET オプションを使用して、収集するデータコレクションメトリックのセットを制御できます。

CA Chorus Infrastructure Management for Networks and Systems の時系列機能 (TSF) に送信されるメトリックのセットを制御するために新しいアクションが定義されています。TSF 適合として定義されるメトリックのみを有効化または無効化できます。適合性のリストは、MQVARS コマンドで表示できます。

VARIABLE-SET

source:variable:actions

source

WEBMQ

Variable

データコレクションメトリックの名前。この名前は総称的に指定できます。

- 可変長マスク文字 : =
- 固定長マスク文字 : *

actions

適用するアクション。

- ENAbled - コレクションが有効化されます。
- DISabled - コレクションが無効化されます。TSF も無効化されます。
- TSF - TSF コレクションが有効化されます。メトリックも有効化される必要があります。
- NOTSF - TSF コレクションが無効化されます。

コンポーネント

CA SYSVIEW コンポーネントの拡張機能についてこのセクションで説明します。

オーディット イベント コンポーネント

オーディット イベント コンポーネントは、CA SYSVIEW 製品内で実行されるアクティビティおよびアクションを追跡または監査します。オーディット イベント コンポーネントはリソースの置き換えや変更を行うアクティビティを記録するように設計されます。

拡張されたコマンド

既存のコマンドに、以下の拡張が行われました。

AUDITDEF

オーディットイベント定義。

コマンドが拡張され、ライブラリ連結をサポートするようになりました。

変更された サブコマンド構文パラメータ:

データ セットの特定のメンバへのエクスポート定義。

構文 :

```
EXPORT member  
       dsname(member)
```

パラメータおよび説明

- *member* - 保存されるメンバの名前。
- *dsname* - 指定されたメンバが保存されるデータ セット名。
データ セット名は、完全修飾データ セット名として指定するか、以下の特別なキーワードのいずれかを使用して指定できます。

キーワードおよび説明

- **USER** - ライブラリ タイプ PARMLIB 用のユーザ プロファイルで定義したオプションのデータ セット名を使用します。
例 : **USER(*member*)**
- **SITE** - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるオプションのサイト PARMLIB 日付セットを使用します。
例 : **SITE(*member*)**
- **SYSTEM** - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるシステム PARMLIB データ セットを使用します。
例 : **SYSTEM(*member*)**
- **SITESYSTEM|*** - システム設定オプション parmlib メンバ GSVXSYSV で定義されるオプションのサイト PARMLIB データ セットを使用します。サイトデータ セットが定義されていない場合は、システム PARMLIB データ セット名を使用します。

例

```
SITESYSTEM(member)  
        *(member)
```

AUDITLOG

オーディットイベントログ。

CA SYSVIEW のログストリーム技術により、ログストリームとの間での読み取りおよび書き込みのパフォーマンスが大幅に向上されています。

この拡張機能には以下の利点があります。

- ログストリームから読み取りおよび書き込みするための CPU 使用を縮小しました。
- ログストリームから大量のレコードを読み取るために必要な経過時間が短縮されました。

_LINES パラメータのデフォルト値および最大値が調節されました。

パラメータ

- LINES

新しいデフォルト値 : 25,000

新しい最大値 : 1,000,000

古いデフォルト値 : 5,000

古い最大値 : 100,000

この LINES 値はユーザプロファイルに格納されます。希望のプライマリコマンドから以下のコマンドを発行することにより、保存されているデフォルト値を変更できます。

OPTIONS LINE *nnnnn*

CA グラフィカル管理インターフェース

CA SYSVIEW CA GMI コンポーネントは、最新の GMI Windows GUI インターフェースを提供します。ユーザはこのインターフェースから CA SYSVIEW にアクセスし操作を行うことができます。このインターフェースへの拡張が行われました。

追加されたオブジェクト

以下のオブジェクトが CA SYSVIEW CA GMI コンポーネント インターフェースに追加されました。

- ALERTSUM - 例外アラート サマリ
- ASLOCKS - アドレス空間一時停止ロック
- HCLOG - Health Checker ログ
- IDBUFFIO - バッファ I/O
- IDDBASES - データベース概要
- IDDBIOD - データベース I/O ドライバ
- IDJRNL - ジャーナルアクティビティ
- IDLINES - 通信回線
- IDLTERMS - 論理端末
- IDLTRESU - 論理期間リソース
- IDPGMPL - プログラム プール
- IDRU - システム実行ユニット
- IDSCRMGR - スクラッチ マネージャ
- IDSQSL - SQL 使用
- IDSTG - ストレージ プール概要
- IDSTGPL - ストレージ プール
- IDTASKS - アクティブなタスク
- IDTRANOV - トランザクション概要
- IDTRANS - トランザクション
- IDTSKPGM - タスク/プログラム プール
- JOUTPUTW - JES ジョブ出力
- JPRINTER - JES プリンタ
- JSYSLOGW - システム ログ

拡張されたオブジェクト(GMI)

以下のオブジェクトが拡張されました。

OPERLOG

OPERLOG オブジェクト機能は現在、他のログストリーム コマンドと似ています。このオブジェクトには、SY817000 およびオブジェクト番号 40703 の新しいオブジェクト名もあります。

IDMSLIST

新規ズーム：

- システム アクティビティ - ACTIVITY にズームします
- 割り当てられたデータ セット - DSALLOC にズームします
- 出力ファイル - LISTFILE にズームします
- タスク - TASK にズームします。

オブジェクトツリーの機能拡張

オブジェクトツリーの機能が拡張され、以下のフォルダが追加されました。

CA SYSVIEW¥Databases¥CA IDMS

この新しい CA IDMS ブランチには、CA IDMS コマンドが含まれます。

OUTPUT コマンドは、新しい JOUTPUTW コマンドに置き換えられました。

PRINTER コマンドは、新しい JPRINTER コマンドに置き換えられました。

SYSLOG コマンドは、新しい JSYSLOGW コマンドに置き換えられました。

削除されたオブジェクト

以下のオブジェクトが削除されています。

- OUTPUT - JES ジョブ出力
- PRINTER - JES プリンタ
- SYSLOG - システム ログ

CA Explore Report Writer

CA SYSVIEW CA Explore Report Writer が CA SYSVIEW に同梱されています。この使いやすいレポート ライタを使用して、CA SYSVIEW レコードおよびさまざまな SMF と RMF レコードに関するレポートを作成することができます。

新規レポート オプション

ユーザ提供のうるう秒オプションのサポートが追加されました。うるう秒は、SMF レコードから読み取られる時間値で自動的に調節されます。ただし、レコードは、常にうるう秒に対応した LPAR 上で作成されるとは限りませんでした。新しいオプションでは、時間変換の計算にうるう秒を含める（デフォルト）か除外するか、またはユーザ指定の数値を使用するかを選択できるようになっています。

OPTION(LEAPSEC= <YES> | <NO> | <nn>)

- YES - SMF レコードがうるう秒に対応した環境で書き込まれたと見なします (DEFAULT)。
- NO - SMF レコードがうるう秒に対応していない環境で書き込まれたと見なします。
- nn - 表示用の時間値の変換に使用される正の整数のうるう秒。

注: LEAPSEC=NO と LEAPSEC=0 は同じです。

追加された変数

以下の変数が CA Explore レポート ライタに追加されました。

製品	タイプ	クラス	変数	説明
CICS	PERF	TRAN	L8CPU	平均 L8 TCB CPU TIME
CICS	PERF	TRAN	DB2RQWT	平均 DB2 作動可能キュー待機時間
CICS	PERF	TRAN	DB2CWT	平均 DB2 接続待機時間
CICS	PERF	TRAN	DB2WT	平均 DB2 待機時間
CICS	PERF	TRAN	RUNTIME	平均実行時間 (LIFETIME - DSPDELAY)
CICS	PERF	TRAN	IRSPTIME	Non-Terminal レスポンス時間

CICS	INT	TRAN	DB2RQWT	平均 DB2 作動可能キュー待機時間
CICS	INT	TRAN	DB2CWT	平均 DB2 接続待機時間
CICS	INT	TRAN	DB2WT	平均 DB2 待機時間
CICS	INT	TRAN	IRSPTIME	Non-Terminal レスポンス時間
CICS	SUM	TRAN	DB2RQWT	平均 DB2 作動可能キュー待機時間
CICS	SUM	TRAN	DB2CWT	平均 DB2 接続待機時間
CICS	SUM	TRAN	DB2WT	平均 DB2 待機時間
CICS	SUM	TRAN	RUNTIME	平均実行時間 (LIFETIME - DSPDELAY)

IDMS コンポーネント

IDMS コンポーネントが機能拡張され、IDMS 用にコンポーネント CA SYSVIEW をアクティブにするべきかどうかを指定できるようになりました。

有効な値 : Yes、No

デフォルト : No

IDMS コンポーネントに追加されたコマンド

CA SYSVIEW for IDMS が拡張され、以下の新規コマンドが追加されました。

- IDBUFFIO - IDMS バッファ I/O
- IDDBASES - IDMS データベース概要
- IDDBIOD - IDMS データベース I/O ドライバ
- IDJRNL - IDMS ジャーナルアクティビティ
- IDLINES - IDMS 通信回線
- IDLTERMS - IDMS 論理端末
- IDLTRESU - IDMS 論理端末のリソース使用状況
- IDMS - ターゲット IDMS の設定
- IDMSTEST - IDMS テスト
- IDPGMPL - IDMS プログラム プール
- IDRU - IDMS システム実行ユニット
- IDSCRMGR - IDMS スクラッチ マネージャ
- IDSQL - IDMS SQL 使用状況
- IDSTG - IDMS ストレージ プールの概要
- IDSTGPL - IDMS ストレージ プール
- IDTASKS - IDMS アクティブ タスク
- IDTRANS - IDMS トランザクション
- IDTRANOV - IDMS トランザクションの概要
- IDTSKPGM - IDMS タスク/プログラム プールの概要

拡張されたコマンド

既存のコマンドに、以下の拡張が行われました。

IDMSLIST

CA IDMS アドレス空間リストを表示します。

新しい構文： GROUP を指定できます。

```
IDMSLIST < XSYStem | NOXSYStem >
          < XSData | NOXSData >
          < GROUP  name >
```

新規構文パラメータ

- GROUP - 表示される IDMS ジョブ名のリストが含まれるグループ名を指定する引数が後に続きます。 タイプが IDMS の利用可能なグループのリストを GROUPS コマンドで調べることができます。

グループ名には「*」を指定して、グループ処理が必要ないことを示すことができます。

セキュリティ

CA SYSVIEW セキュリティが拡張されました。

セキュリティデータセットの変換

インストール中に、変換ユーティリティ GSVXCNVS は CA SYSVIEW の前リリースのセキュリティデータセットを現在のリリース 13.5 用に変換します。

セキュリティファイルが変換されると、13.5 で導入されたコマンドのコマンド許可は FAILED と表示されます。 コマンドを FAILED と表示することで、セキュリティ管理者の調査がないまま新規コマンドが既存システムに導入されるのが阻止されます。

セキュリティ管理者は、CA SYSVIEW にログオンし、SECURITY コマンドを発行してコマンド許可を更新することができます。

セキュリティレポート

外部セキュリティセクションを選択的にセキュリティレポートに含めることができます。

例

```
//SYSIN    DD  *
REPORTS=(GRPDET=DEFAULT)
SECTIONS=(JOBS,CMDFLDS,EXTERNAL)
/*
```

リリース 13.9 より前のリリースでは、外部セキュリティセクションが常にレポートに含まれていました。

セキュリティユーティリティ

新しいユーティリティが利用可能になり、**User Groups** をセキュリティデータセット間でコピーできるようになりました。

サンプル JCL が SYSVIEW.DEV.BASE.SAMPLIB(USERLIBS) にあります。

外部セキュリティに関する考慮事項

このリリースで CA SYSVIEW に各種の新しいコマンドが追加されました。追加の外部セキュリティルールが必要になる可能性があります。

- JES2 SPOOL リソースに対する既存のルールおよびプロファイルによって、すべてのスプールボリュームへのアクセスの対応が十分に含まれない場合は、それらのルールおよびプロファイルを変更してください。

対象エンティティ：

SV.RESN.<system>.SP00L.<JES2_ssld>.<2-byte_spool_volume_suffix>

変更後：

SV.RESN.<system>.SP00L.<JES2_ssld>.<6-byte_spool_volume>

- サンプル SAF EXIT、SAFSECX および JSPLSECX のサポートが停止されました。SAF エンティティの確認は、CA SYSVIEW 内部で行われるように変更されました。SAF エンティティの確認を有効にするには、SAF エンティティクラスを定義してください。このクラスは、ユーザの内部セキュリティ グループの External Security セクションまたは GLOBAL グループで定義できます。

SAF をコールする前に、事前 SAF 通知 EXIT をコールできます。CA SYSVIEW はクラス名およびエンティティ名を EXIT へ渡します。

注: 詳細については、「*Security Guide*」を参照してください。

- SAF リソース コールは現在、特定のリソース タイプに対して中止されています。以前は、エンティティ SV.SUSP.<system>.RESN への読み取りアクセス権限をユーザに付与することで、すべてのリソース コールを中止する機能を実行できました。現在は、エンティティ SV.SUSP.<system>.RESN.<resource> への読み取りアクセス権限をユーザに付与することで、特定のリソース タイプを中止できるようになりました。

スプール上のジョブが含まれている出力クラスに対するすべてのリソース確認を中止するには、以下の中止ルールをコーディングしてください。

SV.SUSP.<system>.RESN.OUTCLASS

- 新しい SAF Generator Utility は、テンプレート プロファイルの生成、または外部セキュリティ マネージャに基づくルール定義の生成に使用できます。

このユーティリティを実行するサンプル JCL は、以下の場所にあります。

SYSVIEW.DEV.BASE.SAMPLIB(GSVUSAFAE)

詳細については、以下のヘルプ トピック「**Implementing External Security (SAF)**」を参照してください。

拡張されたコマンド

既存のコマンドに、以下の拡張が行われました。

SECURITY

■ セキュリティの Miscellaneous セクション

CA SYSVIEW セキュリティユーザ グループの Miscellaneous セクションでは、複数のコマンドグループで定義されているコマンドへのユーザ アクセスを制御します。

- オプション： タイムアウト値 (分)

CICS セッションまたは VTAM セッションが自動的に終了されるまでに、これらのセッションがアイドル状態を継続する時間長。

値は分単位で指定します。 値 0 (ゼロ) は、時間に制限がないことを示します。

たとえば、タイムアウト値が 5 であるとします。 このグループのユーザがログインし、何も入力しない状態が 5 分間続くと、セッションが終了します。

デフォルト： 240

以前のリリースでは、デフォルトは 0 でした。

■ セキュリティ管理-外部セキュリティ セクション。

CA SYSVIEW セキュリティユーザ グループの外部セキュリティ セクションには以下の新規オプションが含まれ、外部セキュリティ リクエストの制御に使用されます。

- オプション： 内部セキュリティ コールのバイパス

外部セキュリティの確定アクセスのみを必要とする場合は、値に YES を指定します。 外部セキュリティの前に内部セキュリティがコールされなくなります。 内部セキュリティで失敗したアクセスは、外部セキュリティがオーバーライドして許可することはありません。 このオプションでは、外部セキュリティを排他的に使用でき、DEFAULT 内部セキュリティ グループ内のアクセスをすべて許可する必要がありません。

注： このオプションを設定する場合、内部セキュリティで定義したコマンドグループは、確定コマンドおよびサブコマンドのアクセスに参加しません。

デフォルト： No

REXX 環境

CA SYSVIEW REXX 関数が機能拡張されました。

REXX アドレス環境

CA SYSVIEW REXX サービスが拡張され、ホスト環境およびモジュールを指定できるようになりました。

ADDRESS LINK GSVXRXAA <envname> <modname> <subname>

<envname>

(オプション) REXX にホスト コマンド環境テーブルに追加されるホスト コマンド環境名。

デフォルト : &G\$HCEnvName

指定する場合、値は 1 ~ 8 文字の英字、国内文字、または数字でなければなりません。小文字は大文字に変換されます。

環境名が指定されない場合、環境 SYSVIEW と SYSVIEWE が両方作成されます。

<modname>

(オプション) 「ADDRESS <envname>」に対して呼び出されるモジュールの名前。

デフォルト : GSVXAPIE

指定する場合、値は標準の PDS メンバ名ルールに従う必要があります。

<subname>

<modname> パラメータがアタッチするモジュールの名前。このパラメータは省略可能です。デフォルトは GSVXAPID です。指定する場合、値は標準の PDS メンバ名ルールに従う必要があります。

- このルーチンからのリターン コード :

- 00 - リクエストされたエントリがホスト コマンド環境テーブルに追加されたか、すでにテーブルに存在しました。
- 04 - 指定されたパラメータが多すぎます。指定できるのは 3 つのみです。
- 08 - 必要なパラメータが省略されました。このリターン コードは現在使用されておらず、発生することはありません。
- 12 - パラメータの最大長を超過していました。<envname>、<modname>、および <subname> パラメータはすべて最大 8 バイト長です。
- 16 - 無効なパラメータ値。<envname>、<modname>、または <subname> パラメータに無効な文字が含まれていました。

- 20 - IRXSUBCM エラー。 エラーについての説明メッセージも発行されます。
- 28 - IRXSUBCM エラー。 言語プロセッサ環境を検索できませんでした。
- 32 - IRXSUBCM エラー。 パラメータリストが無効です。 パラメータリストに含まれるパラメータ数が少なすぎるか多すぎます。 または、パラメータリスト内の最後のアドレスの高位ビットが 1 に設定されていません。 このビットによりパラメータリストの最後が示されます。
- ホストコマンド環境テーブルエントリを削除するには、**GSVXRXAD** を使用します。 このモジュールでは、トークンがブランクや **NULL** でないエントリは削除されません。 このようなエントリを削除するには、**GSVXRXAP** を使用します（以下の箇条書きを参照）。
- ホストコマンド環境テーブルエントリをページするには、**GSVXRXAP** を使用します。 このモジュールでは、トークンの内容にかかわらずエントリは削除されません。

追加された REXX 関数

CA SYSVIEW REXX 関数が機能強化され、以下の新規コマンドが追加されました。

- **TESTCMD** - この関数は文字列をテストして、その文字列が有効なコマンド名かどうかと、その場合には実行可能であるかどうかを確認します。 文字列は引数として与えられます。

ユーザ定義ディスプレイ

CA SYSVIEW では、ユーザ専用のコマンドディスプレイが作成できます。以下のプロセスでは、ディスプレイの作成について説明します。

ディスプレイの作成方法

1. ユーザ コマンドディスプレイを構築するには REXX を使用します。
2. REXX EXEC を呼び出すには、RXDISP コマンドを使用します。
3. REXX スタックのキューに置かれたデータを使用して、CA SYSVIEW ディスプレイを作成します。

ディスプレイは単純なテキスト行か、または拡張属性を使用したフォーマットで作成することもできます。

ユーザディスプレイは以下の機能をサポートできます。

- 拡張属性
- オンラインヘルプ
- 行コマンド
- 選択
- ソート

ユーザ コマンド定義

ユーザ コマンド定義が機能拡張され、ヘルプ メンバをユーザ コマンドに関連付けることができるようになりました。

```
DEFINE      commandname
    MINlen    nn
    DESCription  ''
    HELP      member
    CMDstring  string
ENDDEFINE
```

製品で提供されているサンプルユーザ コマンド

CAPDISPLAY

現在の表示をキャプチャします。

CICSDATA

CICS データ収集ダッシュボード。

DASHBOARD

ダッシュボードを表示します。

FILEList

リスト Multi-DSN ディレクトリを表示します。

GOTOCICS

CICS 領域に移動します。

LOAN

ローン計算機能を表示します。

LOGOFF

製品からログアウトします。

MQCLUSTERTopic

クラスタ MQ トピック オブジェクトを表示します。

MQLOCALTopic

ローカルに定義された MQ トピック オブジェクトを表示します。

NEWHELP

ライブラリ キャッシュに HELP ライブラリが再ロードされます。

NEWCPARM

ライブラリ キャッシュにパラメータ ライブラリが再ロードされます。

NEWCTEMP

ライブラリ キャッシュにテンプレートが再ロードされます。

PROBlem

問題行を選択します。

STARTSYSVIEW

SYSVIEW メインアドレス空間を開始します。

STOPSYSVIEW

SYSVIEW メインアドレス空間を停止します。

STP

Server Time Protocol 情報を表示します

SYSVDATA

SYSVIEW データ収集ダッシュボード。

SYSVZIIP

SYSVIEW zIIP 使用状況ダッシュボード。

TOPCPU

トップ 10 の CPU アドレス空間

UNIQflds

一意なフィールドのリストを表示します。

WARNing

警告行を選択します。

ダッシュボード

ダッシュボードは、複数の **SYSVIEW** およびユーザコマンドのそれぞれを、
ウインドウペインという名前の独立した表示領域に表示するディスプレイです。ダッシュボードは、ウインドウおよびペインを説明する特定の
キーワード、およびそれらに関連付けられたコマンドを使用して構築されます。プログラミングは不要です。

ダッシュボードは、ウインドウと呼ばれるディスプレイの水平領域から構成されます。各ウインドウは、ペインと呼ばれる複数の領域に分割されています。各ペインには、**SYSVIEW** コマンドのデータが含まれます。

ダッシュボード機能を使用して以下のタスクを実行することにより、パフォーマンス管理およびトラブルシューティング機能を強化できます。

- カスタマイズされた画面ビューを作成する。
- さまざまな CA SYSVIEW ソース (CICS、MQ、DATACOM、IMS、JES および z/OS) からのデータを組み合わせる。

ダッシュボードは、ウィンドウと呼ばれる水平領域で構成されます。また、各ウィンドウはペインと呼ばれる 1 つ以上の領域に分割されます。ウィンドウペインには複数の CA SYSVIEW およびユーザ コマンドを表示できます。

詳細については、オンラインヘルプ トピック 「Dashboards」 を参照してください。

追加されたダッシュボード ペイン オプション

ダッシュボードペインが拡張されました。

新しいペイン オプション

NOADD

データの最初の行が ?Add 入力行の場合、この行を除去します。また、? で始まる列データにはブランクが入力されます。

詳細については、ヘルプ トピックの「ダッシュボード」を確認してください。